

# 如学会NEWS

jogakkai

## 2018春

東京都市大学  
建築学科同窓会誌

インタビュー

東京オリンピック・パラリンピック  
ヨットレース会場となる

「湘南港ヨットハウス」設計者

西田勝彦氏（S45卒）に聞く

「大成建設技術研究所・技術見学会」

「コトブキシーティング・技術見学会」

第2回「軍艦島をはかる」

「小中学校（70号棟）耐波建築（31号棟）  
最大の建物（65号棟）をはかる」

如学会主催 建築学生のための

「進路支援プログラム」

OB・OGによる進路ガイダンス

「建築一〇〇人展二〇一七」

図書館展・大学展・浅草展」開催

建築学科だより

「都市大校友オンライン」登録について

「女流ファイル」PART・17

卒業設計・卒業論文

修士設計・修士論文

蔵田賞・如学会賞





今年も例年のように、この「如学会NEWS・春号」は、「3月19日」と決められている学位授与式（卒業式）に合わせて発刊されています。

建築学科を卒業される皆さんは、如学会員として登録されますが、「正会員」となるためには、「登録カード」「年会費」が必要となります。東京都市大学建築学科卒業生で構成されている「如学会」は、他校に類をみない活動を展開しています。活動の中心となっているメンバーは、仕事の傍ら、ボランティアで大学のため、OB・OGのため、後輩のために汗を流しています。東京都市大学建築学科の卒業生の活躍が目立ち、実力のある著名な建築関係者が次々と輩出されるのは、OB会が充実した活動を展開しているからであると、身に余る評価を得て、他大学で如学会活動に関するレクチャーの機会をもたれたりしています。

今年卒業する皆さんも、「進路ガイダンス」では早速先輩として、後進の指導にあたってください。数年後には、OB・OGによる多分野に亘る「特別講義」の特別講師をつとめたり、「100人展」には、是非近況を知らせる作品や活動報告を出展、参加して下さい。近年、最も必要な「情報」と、仕事や将来につながる「縁」「人脈」を得ることが出来ます。以下に直近のこの1年の主な如学会の活動を写真で紹介します。

## 山岡嘉彌

(S46 卒)

如学会会長



定期総会後の懇親会 (6.3)



パリ建築視察ツアー (4.25-4.29)



夏期特別講座 (8.1-8.2, 8.7-8.9)



100人展・大学展 (11.4-11.5)



如学会NEWS年2回発刊(春・秋)



大成建設技研・技術見学会 (9.27)



如学会・進路ガイダンス (11.22)



100人展・図書館展 (10.7-11.5)



100人展・浅草展 (12.2-12.10)



被災地「ランディア」プロジェクト

### ■建築学科棟が竣工後

2006年に竣工した4号館新建築学科棟は供用開始から11年経ちました。ついこの間引っ越しをしてきたばかりと思っていたのですが、10年を超えてしまいました。細部を見ると、くたびれてきているところもありますが、空間のすばらしさは色褪せていません。今でも視察の方が見えます。隣接地には堀場研究室が設計に参画しているC1棟も完成間近で、4号館の屋上庭園越しによく見えます。建築学科棟の周りの風景も日々変わってきています。是非、卒業生の皆さんも散策にいらしてください。お待ちしております。

### ■建築学科人事

2018年4月からの建築学科人事を紹介します。

○主任教授：勝又英明 教授

(2018年度まで)

○専攻主任教授：大橋好光教授

(2018年度まで)

○就職担当：天野克也教授(2018年度から)

○採用：藤井研一 先生 教育講師

(環境設備系の授業を担当して頂きます。)

○退職：及川喜代文先生 (環境・設備系)

山田 俊一先生 (構造系)

■非常勤講師人事(ご退職)

長く勤めていただいた先生で、今年度一杯で退職される先生をご紹介します。長い間ありがとうございました。

## 勝又英明

(S55 卒)

東京都市大学  
建築学科主任教授

### 建築学科の近況

浅石 優先生(設計(5))  
黒田早苗先生(建築施工法)  
桑原 茂先生(設計(1))  
斉藤 博先生(建築職能特論)  
三谷康彦先生(ランドスケープデザイン)  
矢野和之先生(文化遺産保存・活用特論)

(ご紹介するのは全員の先生ではありません。ご了承ください。五十音順です。()内はご担当科目です。)

### ■建築学科の定員が増えます。

世田谷キャンパスの学部構成が2018年度から改組される予定でしたが延期となりました。建築学科の定員は現在の110名から120名に増加する予定です。大学院は予定通り大学院工学研究科が総合理工学研究科となります。これに伴い、建築学専攻と都市工学専攻が合併し、「建築・都市専攻」となり、旧建築学専攻は「建築学領域」、都市工学専攻は「都市工学領域」となります。

### ■博士後期課程在籍者が増えています。

現在、本学大学院では「大学院修士課程、博士後期課程の社会人選抜入学者授業料減免」制度が行われています。この制度は大学院入学試験において「社会人選抜により修士課程・博士後期課程に入学した方」に対して、修士課程では授業料年額の50%を減免、博士後期課程では90%を減免するものです。この制度を活用して、3人の方が入学され、今春にはさらに2人の方が入学予定で、皆さん博士号取得のために勉学されています。博士号取得を目指す皆さんは是非、本学建築学科の教員にご相談ください。お待ちしております。

五島育英会曾禰奨学金の給付を得て、アメリカ合衆国カリフォルニア州カリフォルニア大学バークレー校に

2016年4月から2017年3月まで留学してきました。  
カリフォルニア大学は、カリフォルニア州オークランド市に本部を置く州立大学群で、現在全米最大規模となる10大学で構成されています。この大学群はカリフォルニア大学 (UC) システムと呼ばれ、各大学は独自に運営されています。私の滞在先であるバークレー校 (UCB) は最も歴史が古く、UCシステムの旗艦校で、全米公立大学ランキングでは長らく1位、世界大学ランキングにおいてもトップ10常連校となっています。また、サンディエゴ校 (UCSD) やロサンゼルス校 (UCLA) などこれらのランキングの上位校となっており、世界トップクラスの大学群として高く評価を受けています。

私が滞在したDepartment of Civil and Environmental Engineering(CEE)は、大学創設時からの学科であり、現在約50名の常勤教員と22名のスタッフが400名以上の学部学生および360名の大学院生の教育に当たっています。

400名以上の学部生といえは本学建築学科と同規模ですが、教員数、職員数、大学院学生数は遠く及ばず、教育・研究環境の差が歴然として感じられました。

## 佐藤幸恵

東京都市大学  
建築学科准教授

### UC バークレー留学報告

私の受入教員となったPaulo J. M. Monteiro教授は、ローレンスバークレー国立研究所のAdvanced Light Source (ALS,加速器施設)を利用したセメント材料の水和物分析で次々と新規の成果を上げており、世界中の研究者との共同研究や国際プロジェクトへの参加など、非常に活発な活動を行っています。

研究設備は他に、Department of Earth and Planetary Scienceと共同でX線回折装置 (XRD)、走査型電子顕微鏡 (SEM) などを運用しており、セメント水和水物の構造解析等に必要な機器が充実した環境でした。私はSEMを利用したSEM-BSE画像とX-ray mapping画像を利用した水和水物の分析について研究を行ってきました。

バークレー校には、日本からも多くの留学生や研究者が滞在しており、大学からだけでなく、企業、法曹関係、官公庁など幅広い分野・職種から多くの人材が派遣されており、広く人脈を得ることが出来たのも大きな成果でした。



UC バークレー校

2017年4月1日から、本学建築学科の教員に就任しました。前職の東京理科大学では、教授の先生の下で助教をしていましたが、独立して研究室を運営することは初めてだったので、少し緊張していました。最初に都市大に来た時に、分からないことが多くて、バタバタしていましたが、建築学科の先生方及び事務室の方たちはとても親切で、私が働きやすい環境を作ってくたさ、色々教えていただいて、思ったより早い段階で仕事に慣れました。

2017年6月3日に都市大建築学科同窓会・如学会に参加し、武蔵工大時代からの大先輩の皆様にお会い出来て、改めて都市大建築学科の一員に成れたことを誇りに思います。その後6月18日のOpen Campusでは、高校生の皆さんと一緒に主任教授の勝又先生から本学建築学科の歴史、人材育成の方針、及び学科の特色を紹介を受けて、本学建築学科の教育理念についてより深く理解することが出来ました。自分も努力して貢献したいと思います。

初年度で全ての授業は0から準備しないといけなくて大変でしたが、ちゃんと聞いてくれる学生がいて、頑張っ準備した甲斐があったと思います。担当している「耐震耐風構造」の授業では、地震が起きる原因について説明をするためには断層の話が出てきます。

## 焦 瑜

東京都市大学  
建築学科准教授

### 本学に赴任して

これまで神戸地震や台湾の集集地震など有名な断層の写真は見たことがありますが、学生に説明するにはこれだけでは何かが足りない気がします。自信を持って学生に上手く説明できるため、休暇を取って淡路島に出掛け、野島断層保存館で神戸地震を起こした断層の実物を見てきました。その後の授業では、私の目で見えたものと現場で感じた震撼を学生に伝え、ほぼ初めて断層の写真を見た学生の皆さんの顔を見て、淡路島まで行ってきて良かったと思いました。

初年度で配属された4年生は2人しかいなくて、少人数のゼミは少しゼミらしくないですが、学生の状況はを詳しく把握できます。後期に入った後、7人の3年生が仮配属されて、研究室らしくなってきました。研究活動やゼミだけでなく、イベントなども楽しく出来ました。先日卒論発表会が無事終わって、研究室の4年生は自分なりに上手く発表出来て、指導教員としても嬉しいです。一年間本当にあっという間でした。これからも本学建築学科の教員として頑張りたいと思っています。

2012年3月 東京工業大学大学院 博士後期課程終了  
博士 (工学)

2012年4月～2017年3月 東京理科大学工学部第二部  
建築学科 助教

2017年4月 現職



1964年の東京オリンピックでセーリング会場として使用するため、日本で初めての競技用ハーバーとして整備された江の島ヨットハーバー（神奈川県藤沢市）。1年を通じて温和な気候の中、数々のヨットレースが開催される国内有数のこのヨットハーバーが、2020年東京オリンピックで再びセーリング会場となる。メイン施設の「湘南港ヨットハウス」（設計／谷口吉郎・山田水城）は老朽化に伴い建て替えられ、2014年4月に竣工。新しいヨットハウスの設計を手掛けた西田勝彦氏（S45卒、オンデザインパートナーズ取締役会長）に話を聞いた。

## インタビュー

# 東京オリンピック・パラリンピックヨットレース会場となる「湘南港ヨットハウス」

設計者・西田勝彦氏に聞く

（ヘルム+オンデザインパートナーズ）

文●山口裕照（H10卒）  
日刊建設工業新聞社

## ■開かれたハーバー作り

旧ヨットハウスを江ノ電の鎌倉駅方向から見ると、江ノ島の先端の埋め立て地にきれいなシルエットで立っていた。建築家だけでなく、1964年東京オリンピックのメモリアルとして多くの人たちの心象風景になっていた。それ故に新しいヨットハウスへの期待感が高く、失望されるようなものであってはならない。

私自身、江ノ島でヨットを50年近く楽しんでいる。乗り手の気持ちや風の向きなどいろんなことを分かっている。1964年当時ヨットは贅沢な趣味だと思われていたし、ボートのヤードは高いフェンスで囲まれ、一般

の人は入りにくい場所だった。公共施設なので誰でも入れるのだが、一般の人には利用できないとも思われていた。ヨット・セーリングにはロイアルなイメージが強いこともあって、旧ヨットハウスには閉鎖感が込められてしまったのかもしれない。

建て替え計画のテーマは、「誰にでも開かれたハーバー作り」。一般の人に馴染みが薄いヨットをもっと大衆化しなければいけないと思う。江ノ島周辺に住む人たちが海が好きだという人たちにとって、ヨットは海岸から遠方に見える点景でしかないでしょう。乗ったこともなければ触ったこともない。近くで暮らしていてもヨットハーバーに来たこともない。それでは駄目だ。オランダやイギリスなどヨーロッパでは、ヨットが家族交流も含めて生活の中に根付いている。

実はヨットを一般の人にとって開いていくかということを



西田勝彦氏（S45卒）

ずっとテーマにしている。そのきっかけが2000年に始まった江ノ島灯台のイルミネーションだ。灯台に合わせて、各クルーザーのマストをロブライトで飾った。冬の寒空の下、ヨットハーバーに行き、イルミネーションを見るのはなかなか良いものだ。話題になって多くの観光客が来てくれた。この頃から「開かれた」がキーワードとなっていた。

## ■居心地の良い大空間とは

「秋葉台文化体育館」（藤沢市）で6千人規模、「東京体育館」（東京都渋谷区）で1万人規模の大空間の設計に携

が力を発揮してくれた。曲面上に水たまりができないよう検討した模型を点群で3次元データ化し、自由曲面の構造を解析した。工事発注のぎりぎりまで水たまりなどについてのスタディを重ねた。

## ■技術的チャレンジは燃える

次の課題はどうやって施工するかだ。柱も梁もなく、羽衣のようなほわっとした軽快な屋根を実現するため、RC造の球体ボイドスラブを採用することにした。巨大なスパンになると梁や柱が大きくなり、ヒューマンスケールを超えてしまう。そこでビン構造を採用した。大きなヨットのマストとほぼ同じ直径20センチのビン構造で軸力を受けている。海に並ぶヨットのマストがそのまま建物の中に入り込み、それに寄り掛かりながら人が語らう。少人数の場合、居場所の手掛かりにもなるだろう。

一つのことが決まると次々と良い方向に進んでいった。自由曲面の一枚屋根を実現するため、型枠や鉄筋の曲げ加工、生コンの打設方法などそれぞれの専門家と一体となって、サンプルをつくり、勉強をして、これならできるとい

うところまでこぎ着けた。一つ一つが難工事だったが、振り返るとあつという間にできてしまったという感じだ。難しかった秋葉台文化体育館をしのぐ難しさだった。技術的なチャレンジはすこく燃えるし、面白い。

## ■職能を生かし地域に貢献

現在も「開かれた」をキーワードに、地元の横浜でいくつかのプロジェクトに携わっている。その一つが横浜ベイスターズの仕事。ファームの屋内練習場や選手寮、トレーニングルームなどを横須賀市の追浜公園に集約するプロ



藤沢市秋葉台文化体育館（横総合計画事務所在籍時・1984年）



東京体育館（横総合計画事務所在籍時・1990年）

ジェクトに取り組んでいる。

従来の屋内練習場は、閉鎖型で照明器具を点灯して室内を明るくする。つまり劇場空間であり、選手が伸び伸びとプレイできる空間ではない。西日の対策などが必要となるが、デイライトの下でプレイしているような屋内練習場を目指している。サステナブルの時代として機械設備に頼らず、暑さや寒さ、明るさや暗さを建築または空間でどうコントロールしていくか。それをどうやって実践するか。この屋内練習場では、自然採光や自然通風を積極的に取り入れていく考えた。

横浜スタジアムの改修計画も私たちが提案した「開かれた球場」がコンセプトとなっている。ファームの新しい施設と同時に完成する予定だ。ベイスターズが地元で愛される人気球団にますますなっていきたい。

秋葉台文化体育館や湘南港ヨットハウス、横浜スタジアムといった単体の建築だけでなく、駅前のまちづくりなどにも携わってきた。建築家という職能を生かし、地域に貢献してこれたかなと思っている。

横総合計画事務所に在職していた若い頃からさまざまな「空間」を考え、具現化し続けている西田氏。「開かれた空間」への想いは湘南港ヨットハウスや地域のプロジェクトに色濃く反映されている。その情熱は冷めず、チャレンジ魂は尽きない。時間が経つのを忘れる熱気に包まれたインタビューだった。



中野坂上サンブライト・ツイン（1996年）  
設計：ヘルム建築・都市・コンサルタント



湘南港ヨットハウス（2014年）  
設計：ヘルム+オンデザインパートナーズ



## 「進路ガイダンス 2017」 325 名の参加で盛大に開催

この度「2017 年度如学会活動の主テーマ」として別紙のとおり 5 年目となる「進路支援プログラム／OB・OG による進路ガイダンス」を実施致しました。この企画は本学建築学科の卒業を控えた学生に対し、

- 「一人では不安な就職問題や進学問題について大学・OB・OG が親身になって相談に乗ってくれる場の提供」
- 「OB・OG を通じて建築の実業社会を知る絶好の機会」
- 「本音で語り合えるコミュニケーションの場の提供」

を目指したものです。

如学会として当企画に込めました意義は、「学生個々人と大学・OB・OG との繋がりを大切にしてきた " 本学の精神 " を就職・進学という大学生活～社会生活を横断的につなぐテーマに生かし、具体的に表現する場を提供する」ことにあります。

当企画は 3 部構成で実施致しました。「第 1 部：業種別仕事紹介」では " 業種別に一つの企業を選び、その企業の本校 OB・OG の方に各業種の概要をパワーポイントを用いて約 7 分でご紹介いただく場 " とし、14 の業種別企業紹介を行って頂きました。

「第 2 部：企業別仕事紹介」では " 建築関連の幅広い業種 74 社の企業の方々 " に参加いただきました。このコーナーは「本校 OB・OG の方と学生とのコミュニケーション」を通じて「建築関連業界の生の情報を伝える場として、学生の不安を少しでも払拭する交流の場」創りを目指したものです。この企業別仕事紹介に期待する役割とは「先輩に聞こう！先輩と語ろう！」というサブタイトルにありますように、あくまでも学生の質問に答える形で「就職・実社会での活動等に関する

企業とそこに於ける業務についてコミュニケーションすること」にありました。「リクルート活動」とは一線を画し、OB・OG のの方々にはあくまで個人として参加頂きました。参加頂きました企業の OB・OG のの方々には学生たちの不安・関心・期待等に熱心に応えて頂き、とても盛況な場とすることができました。

「第 3 部：懇親会」では企業 OB・OG の方々と学生とが、親しく歓談し、学生の関心・疑問・不安等を直接先輩にぶつけることができ、学生にとって他に得がたい「交流のチャンス」を創り出すことができました。

昨年に引き続き開催した今回の「進路支援プログラム」を通じて多くの企業から高い評価を頂き、今回未参加であった企業の OB・OG の方々からも次回への参加のご要望の声が寄せられております。また学生の側からも、この「プログラム」で得た情報・人脈を会社訪問等に生かし、就活に取り組む良いきっかけとなったとの高い評価を得ております。

今回も昨年の反省を生かして、事前に参加企業紹介のデータを作成し学生に配信する等、改善・工夫をして開催致しましたが、参加頂きました「企業 OB・OG」「学生」からはいくつかの課題等も寄せられております。こうした課題・要望を更に次に生かし、より充実した「進路ガイダンス」とすべく活動して行きたいと考えております。

今回の参加者総数 325 名  
内訳は

- ・参加企業 74 社（企業 OB・OG その他参加者 225 名）
- ・参加学生 82 名
- ・大学・如学会関係者 18 名

進路ガイダンス委員会委員長 斉藤 博



(5 号館 1 階・小講堂)

第 1 部「業種別仕事紹介」では 14 名の先輩講師による業種毎の活動紹介が行われました。

## 如学会主催「進路支援プログラム」への御参加ありがとうございました

- 実施日時： 2017 年 11 月 22 日〔水〕13:00-19:00
- 場所： 東京都市大学世田谷キャンパス
- 開催の主旨：この企画は「就活を控えた学生と企業代表の OB・OG が本音で語り合うコミュニケーションの場」「学生個々人と大学・OB・OG との繋がりを大切にしてきた本学の精神の表現の場」を創り出すための試みとして昨年に引き続き開催したものであり、“如学会の役割・存在”を意義あるものとするためのチャレンジでもありました。

### □実施プログラム

#### 第 1 部

| 業種別仕事紹介 13:00-15:45 会場：5 号館 1 階「小講堂」                                |                 |              |
|---------------------------------------------------------------------|-----------------|--------------|
| 建築関連業界を代表する 15 の企業の OB・OG の講師の方々から企業・活動の概略につきパワーポイントを用いてお話しいただきました。 |                 |              |
| 〔業種名〕                                                               | 〔企業名〕           | 〔担当者 (卒業年)〕  |
| 1 官公庁等                                                              | 横浜市             | 馬立歳久 (H03)   |
| 2 アトリエ系設計事務所                                                        | 手塚建築研究所         | 麻殖生龍哉 (H12)  |
| 3 エンジニアリング系設計事務所                                                    | 建築構造研究所         | 高橋修一 (H20)   |
| 4 組織設計事務所                                                           | NTT ファシリティーズ    | 北口英紀 (H06 院) |
| 5 総合建設会社 (設計)                                                       | 長谷工コーポレーション     | 西山 隆 (H16)   |
| 6 総合建設会社 (施工)                                                       | 大本組             | 石川宣文 (H07)   |
| 7 環境・設備関連                                                           | 西原衛生工業所         | 青木一義 (S51)   |
| 8 ハウスメーカー                                                           | 積水ハウス           | 山田ひかる (H28)  |
| 9 ハウスメーカー                                                           | 大和ハウス           | 柳生直彦 (H06)   |
| 10 インテリア・ディスプレイ                                                     | 大成建設インテリア設計部    | 徳野博子 (H09)   |
| 11 技術・材料関連                                                          | 旭ビルウォール         | 島田 大 (H03)   |
| 12 鉄道・不動産・ディベロッパー関連                                                 | 東急電鉄            | 森川 敏 (H23)   |
| 13 エネルギー                                                            | 東京電力カフュエル & パワー | 吉田龍平 (H19)   |
| 14 マスメディア・情報関連                                                      | トランス・コスモス       | 崔 烈浩 (H10)   |
| 15 海外留学・海外就職                                                        | SOGO 建築設計       | 十河 彰 (H16)   |

#### 第 2 部

企業別仕事紹介 16:00-17:30 会場：4 号館建築学科棟 1 階「グランドギャラリー」  
参加企業別に 69 のテーブルを準備、関心のある企業の OB・OG の方々から直接生の情報を得られる貴重な場を提供することが出来ました。

|                  |                                                                                                                                                                 | (五十音順) |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 官公庁等             | 荒川区、川崎市、台東区、UR 都市再生機構、横浜市                                                                                                                                       |        |
| アトリエ系設計事務所       | 手塚建築研究所、三上建築事務所                                                                                                                                                 |        |
| エンジニアリング系設計事務所   | 建築構造研究所、ビーディシステム                                                                                                                                                |        |
| 組織設計事務所          | 石本建築事務所、NTT ファシリティーズ、久米設計、東急設計コンサルタント、東畑建築事務所、日建設計、日本設計、松田平田設計、三菱地所設計、安井建築設計事務所、山下設計                                                                            |        |
| 総合建設会社           | 安藤ハザマ、大林組、大本組、奥村組、鹿島建設、川口土木建築工業、五洋建設、佐藤工業、清水建設、西武建設、生和コーポレーション、銭高組、大成建設、大成ユーレック、高松建設、竹中工務店、鉄建建設、東急建設、戸田建設、飛島建設、巴コーポレーション、西松建設、長谷工コーポレーション、藤木工務店、フジタ、三井住友建設、若築建設 |        |
| 環境・設備関連          | 新菱冷熱工業、大気社、太平エンジニアリング、東洋熱工業、西原衛生工業所                                                                                                                             |        |
| ハウスメーカー          | 積水ハウス、大東建託、大和ハウス工業、東急 Re・デザイン、ナイス、長谷川萬治商店、三井ホーム                                                                                                                 |        |
| インテリア・ディスプレイ     | 丹青社、ディー・サイン、乃村工藝社、三越伊勢丹プロパティデザイン                                                                                                                                |        |
| 技術・材料関連          | 旭ビルウォール、三晃金属工業、ノザワ                                                                                                                                              |        |
| 鉄道・不動産・ディベロッパー関連 | 鈴与三和建物、スターツ CAM、住友不動産、東急電鉄、森ビル                                                                                                                                  |        |
| エネルギー            | 東京電力フュエル & パワー                                                                                                                                                  |        |
| マスメディア・情報関連      | NTT データ、建築資料研究社／日建教育奉仕会、総合資格、トランス・コスモス                                                                                                                          |        |
| 海外留学・海外就職        | 杉本拓海、十河彰                                                                                                                                                        |        |

#### 第 3 部

懇親会 17：30-19：00 会場：1 号館 4 階「ラウンジオーク」  
立食形式の懇親会で、第 2 部で交流できなかった OB・OG とともにフランクな形で質疑応答・コミュニケーションの機会を創りだすことが出来ました。



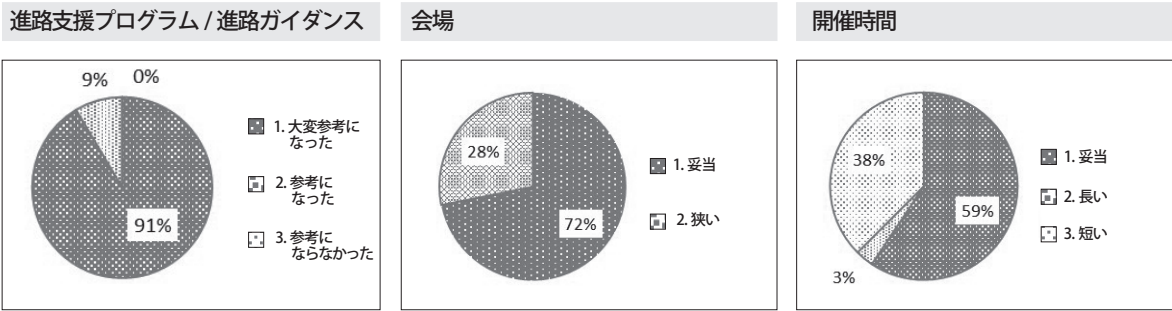


第2部：「企業別仕事紹介」は熱気のあるコミュニケーションの場となりました。（建築学科棟1階・グランドギャラリー）



第3部：「懇親会」ではOB・OGと学生とが親しく交流し、情報を交換することができました。（1号館4階・ラウンジオーク）

■参加学生アンケート

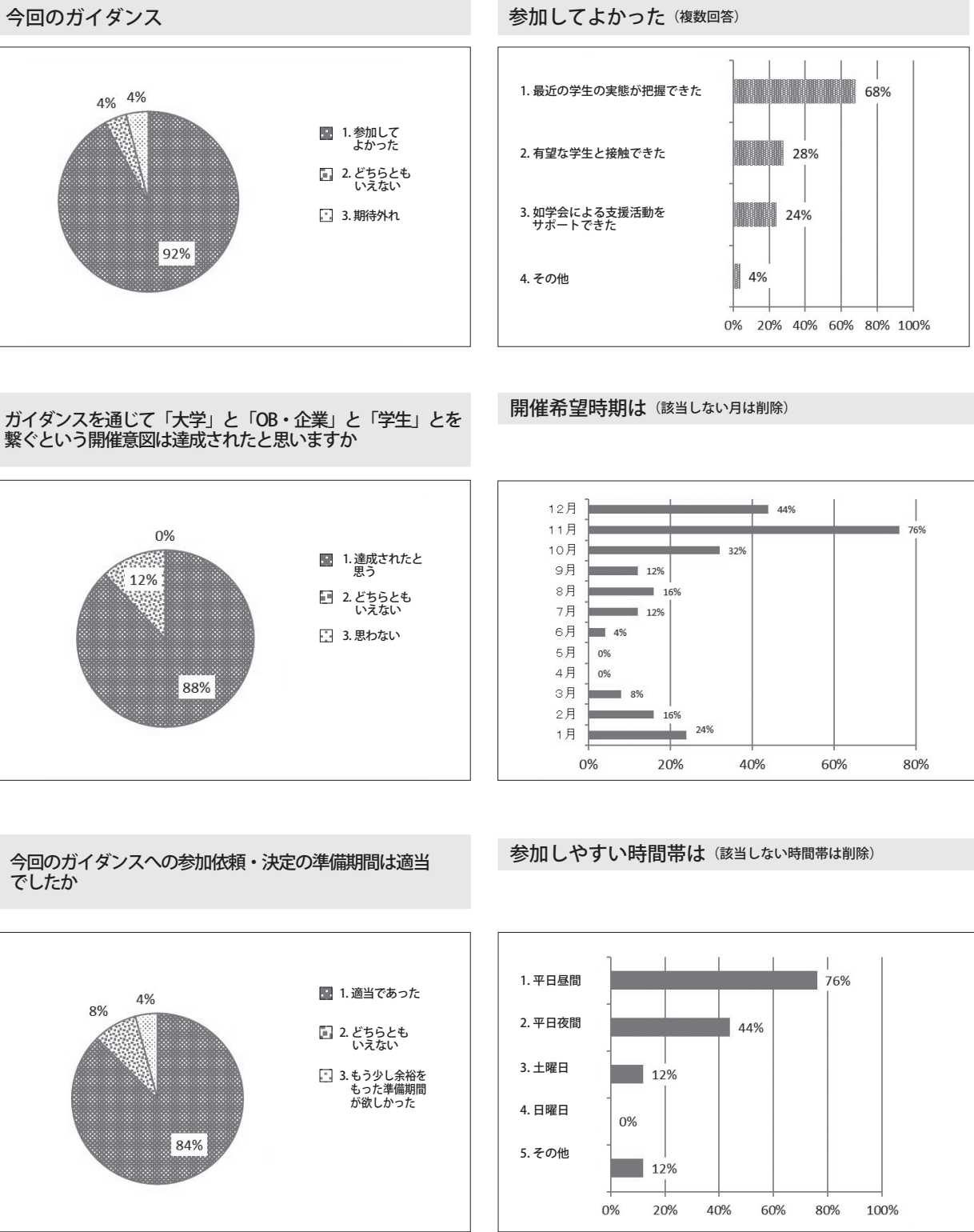


■「進路ガイダンス」参加学生アンケート結果の評価・総括

「進路ガイダンス」実施後のアンケートでは「参加学生の100%の方から大変参考になった又は参考になった」との回答が寄せられました。74社と業界を代表する多くの企業のOB・OGに参加頂き、こうした多方面でOB・OGが活躍されていることを初めて

知ったという学生も多く、この「ガイダンス」での出会いを「会社訪問」等、今後積極的に活動する良いチャンス・契機となったとの報告も寄せられています。

■参加企業アンケート



■「進路ガイダンス」参加学生アンケート結果の評価・総括

「進路ガイダンス」実施後のアンケートでは「参加企業の96%の方から参加して良かった・有意義であった」とのご回答が寄せられました。また、会場・進行等についても貴重なご意見を頂きました。昨年より参加希望企業が増加し、大変うれしい事ではありましたが、参加企業数に対してテーブル数が不足し、皆様には大変混雑したガイダンスとなってしまいました。次回に向けて「改善・工夫」を図っていきたいと考えております。

「進路ガイダンス」に関するお問い合わせは、当企画担当の「進路ガイダンス委員会委員長 斉藤博（S44卒）  
toshibunka@t-lx.co.jp  
03-5411-3448」宛  
お願い申し上げます。



## 明治日本の産業革命を支えた世界文化遺産シンポジウム

## 「軍艦島をはかる」

## 第2回テーマ：小中学校（70号棟）、耐波建築（31号棟）、最大の建築（65号棟）をはかる

主催：東京都市大学、校友会 協力：如学会  
後援：せたがやeカレッジ

講師：濱本卓司、中村陽一

2017年9月30日 二子玉川ライズ「夢キャンパス」

## 軍艦島をはかる

2017年3月25日に行われた、“第1回軍艦島をはかる”、の講演内容の復習から始まった。第1回と同様に、ドローンによる迫力ある空撮は参加者を一気に、廃墟、朽ちゆく軍艦島の世界へと導いた。今回の参加者は、第1回の受講者が約6割、残り4割が今回からの受講者である。

濱本先生の研究課題は、「想定外事象に対するネットワーク異常検知システムの軍艦島における実証的研究」である。総合モニタリングシステム（視覚〔映像〕・聴覚〔音〕・触覚〔振動〕による計測システム）を軍艦島に取り入れ、崩壊過程にある島内の建物をモニタリングしている。中村氏は、第2の故郷、軍艦島の思い出、そして建物の保存への思いを馳せる。

（この「軍艦島をはかる」は、全3回のプログラムで、東京都市大学名誉教授である濱本卓司先生、武蔵工業大学を昭和38年に卒業された中村陽一氏による共同講演である。第1回の内容については、2017年秋に発行された如学会 NEWS を参照して頂きたい。）

## 70号棟をはかる

島内北側に位置する、東西に長い長方形の平面形状（約50m×約10m）をした鉄筋コンクリート造6層に、鉄骨造が1層積み上がった7階建ての学校建築である。この棟の特徴は、東側20m程度で杭が露出していることである。杭は建物基礎部から約5m程度露出しており、杭が折れたり、座屈した鉄筋が飛び出したりと、損傷の程度は深刻なレベルである。

また、最上階の鉄骨造部分は、軍艦島のモニタリングを開始した2012年頃から現在までの約5年間の間に、目に見える形で崩壊が進行していった。建物内部をウエアラブルカメラによって撮影された動画でも、錆びて薄くなった鉄骨が無残に崩壊している姿が映し出されていた。コンクリートに比べ、いかに鉄骨造が塩害に対して脆く、軍艦島の崩壊は進行していると感じられた。建物内部に振動センサーを設置し、常時微動計測から得られたデータを解析すると、地盤が残存している西側よりも、地盤が流出して宙に浮いた東側で大きく揺れていることがわかる。



70号棟「洗堀（せんくつ）」された杭



濱本 卓司（HAMAMOTO Takuji）  
本学建築学科の教授として、平成28年3月まで、建築構造学の教育・研究の分野で活躍。建築学科の主任教授を9年務めた。日本建築学会では、いくつもの委員会の委員長・主査を務める。平成11年には、「海洋シェルと大規模浮体の流力弾性応答に関する一連の研究」で日本建築学会賞を受賞。

## 濱本卓司

東京都市大学名誉教授

## 65号棟をはかる

70号棟の西側に隣接する、コの字型平面（西側に中庭を有し外形は約45m×65m）をした地下1層、地上9層の鉄筋コンクリート造で、島内最大の建築物である。

現在見る事ができる最終形になるまで、5回もの増改築が行われている。第1期として北側が建設され、東側、南側の順で増築が行われてきた。

70号棟では杭が露出し深刻な損傷状態であったが、65号棟は直接基礎で杭は用いられていない。「建築群と地盤」の関係（図）を見てもわかるように、65号棟は1897年（明治30年）の埋立て広がり始める初期の島の形に納まっており、島の岩盤を建物の支持地盤としている。故に島内で最大の建築物とすることができた。

振動センサーによる計測結果から、コの字型の角になる部分（東側）に対して、突出部にあたる西側で南北方向の振幅が大きくなっていた。東側は増築された建物相互の拘束力で、揺れが小さく抑えられていることがわかる。



65号棟（中庭）

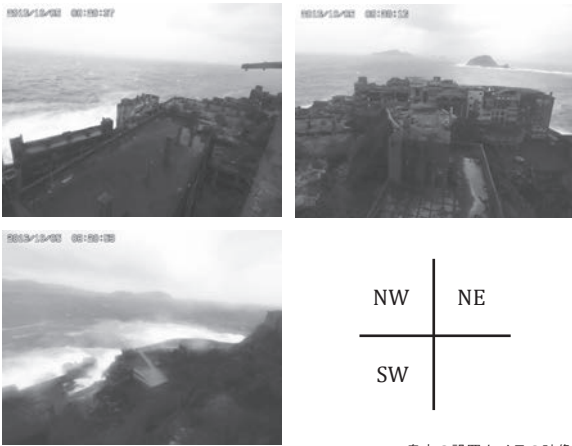
## 31号棟をはかる

島内南西に位置し、南北に長いくの字型の平面形状（約7m×45m、約7m×28m）をした地下1層地上6層の鉄筋コンクリート造に、もともとはALCパネル付きの鉄骨造が2層積み上がった居住棟であった。しかし、現在は塩害により倒壊し、鉄骨造の部分はガレキと化している。31号棟は西側の岸壁に接して建てられている。この岸壁付近は海が深く湾のようにになっているため、外海からの波が高くなり、31号棟ができるまでは台風のために建物が損傷していた。外海からの波浪に対して、島内の重要施設である炭鉱を護るように建てられ、台風時の高波、常に強い海からの潮風を受け止めている。また、島の端にあるため、岸壁側の杭は、波の影響により「洗堀（せんくつ）」され露出していたが、現在は埋め戻されている。

振動センサーによる計測結果からは、中央部と南側で大きな振幅が確認でき、北側の揺れは相対的に小さい。北側には地下室があり、かつ、かつて最上階にあった鉄骨造分のガレキの質量効果により、揺れが抑えられているということであった。

2016年10月5日、台風18号の映像を島内に設置されたカメラが記録している。3台のカメラの映像は同時刻の島内の様子を動画で捉えており、島の南端に押し寄せる波浪（SW）は明らかにほかの方位よりも高く、31号棟を耐波建築として機能させることの意味を確認することができた。

そして、島外のカメラが記録した夜の静かな軍艦島は、月の光に照らされ、一瞬その姿を現しそして闇に消えていった。かつて繁栄し、いまは朽ちゆく軍艦島の時の流れのように・・・



島内の設置カメラの映像

## 「第1回」を振り返る

1810年、漁夫が磯でたき火をしていたら、火がついた石炭を発見！そして、高島炭鉱がはじまった・・・風呂の水は海水、熱源は蒸気。家庭では坑木の廃材を燃やし煮炊きをした。たくさんの人たちが寝食をともにし、島がひとつの家族であった。ゆりかごから冠婚葬祭まで、島ですべてが完結した生活環境。

大正15年に東京渋谷に同潤会アパートが完成する10年も前の大正5年に、端島（軍艦島）には30号棟が完成していた。

## 65号棟（島内最大の居住棟）

65号棟は島内最大にして最多戸数を誇った。通称、「報国寮」といい、戦中に建設が始まった建物である。資源が不足する時代、炭鉱施設が当時の国家から如何に手厚い保護を受けていたかを物語っている。1945～58年にかけて増築を行いコの字型の配置となった。そしてこの建物最大の特徴は、日本家屋の見られる“えんがわ”の感覚を鉄筋コンクリート造の建物に融合したことにある。30号棟は共用トイレだったが、65号棟の南側には各戸にトイレが完備されていた。そして、最上階には幼稚園、中庭には遊園地が設けられ、島の生活を支えていた。

「10階に幼稚園を計画したため、なかなか確認申請がおりず、長崎から役人を端島に連れてきて、10階でも問題なく使用できることを島中で直接見てもらい、最終的に申請がおりた。」という逸話が紹介された。



遊びは屋上

夜勤の父が寝ているため外で勉強



建築群と地盤の関係

## 中村陽一

## S38卒

## 軍艦島を世界遺産にする会 理事



中村 陽一（NAKAMURA Youichi）  
1938年札幌市で生まれ、終戦後の1947年一家で樺太より引き揚げ、端島（軍艦島）へ移住。父親が端島の三菱鉱業株式会社の鉱長であったため、中学一年まで端島で過ごす。昭和38年武蔵工業大学建築学科を卒業し、清水建設、住友不動産において設計から工事監理にて活躍。現在は、世界文化遺産に指定された第2の故郷である軍艦島の功績を語りついでいる。

## 70号棟（小中学校）

「至誠・博愛・健康」を校訓とした端島小学校は、明治26年11月3日に三菱社の社立尋常小学校として発足した。昭和9年に端島小学校校舎が木造2階建てで完成。昭和30年に高島町立となったが、昭和32年に木造校舎から出火し、隣接する端島病院を全焼、建設中の鉄筋コンクリート造6階建ての校舎の一部、65号棟の一部を焼いた。そして昭和33年に現在の70号棟（鉄筋コンクリート造6階建て）に建替えられた。

炭鉱閉山後の平成3年に大型台風により護岸が決壊し、基礎の一部が洗掘され杭がむき出しになってしまった。一刻も早い埋め戻しを願う。

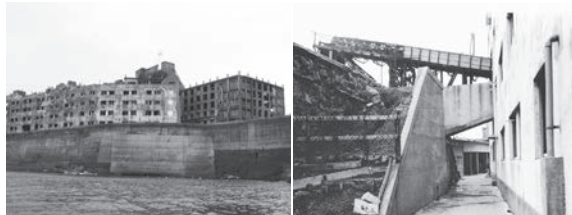


端島小学校（建設中の校舎も焼ける）

## 31号棟（耐波建築）

この棟の特徴は、1階に郵便局、地下1階に共同浴場があったこと。また、炭鉱ガラ（ボタ）を海上に投棄するために、建物を東西にぶち抜いてベルトコンベアーが設置されていた。

この建物が位置する島の南部の外海側のエリアには、もともと商店街が広がっていたが、1956年の台風により壊滅的な被害を被ったため、商店街は移設され、防潮棟として31号棟が建設された。男性達は炭鉱から上がって来ると、作業着のまま鉱区近くの風呂に入り汚れを落としたため、31号棟の共同浴場は女性の浴場の方が広く造られていた。



31号棟（内海より）

31号棟  
（炭鉱がらを捨てるベルトコンベアー）

## 端島病院

当初は木造2階建てであったが、隣接する小学校の火災により全焼し、昭和33年に鉄筋コンクリート4階建てに建替えられた。赤痢等の伝染病、炭鉱特有の病気である塵肺、炭鉱事故などによる負傷者の外科的処置など、あらゆる病気や怪我に対応できた。

中村さんの体験談として、糠を詰めた袋で小学校の床を磨く際、木片が指に刺さり、ひょう疽になり端島病院で麻酔なしで爪を剥がされた・・・ゾッとする思い出話もあった。そんな、痛々しい話でも中村さんは軍艦島での思い出を終始笑顔で語られた。

「第3回」予定：2018年3月24日（土）  
「日給社宅（16～20号棟連結建物）をはかる」

レポート：青年委員会 三好敏晴（H10卒）



## 大成建設技術見学会

2017.09.27 [水]

齋藤公彦 (S44 卒／東京都市大学産学官連携コーディネーター)



集合写真



説明風景



担当あいさつ



懇親会

文中以外の参加者：山岡 嘉彌、鈴木 亨（S46）、井上 富美子、丹羽 譲治（S48）、池谷 透（S51）、手塚 雅仁、露木 博視（S55）、宇野 允、植谷 英子（H14）、小林 紘子、奥山 正則、櫻井 ちると、宮崎 励（学外）、小林 友哉、中村 俊喬、高橋 周吾、中田 隼、赤城 勇貴（本校2年）、川田 直輝、清光 琢矢（本校1年）、事業コーディネート：芝本 敏彦（S59）

私が建築学科を卒業したほぼ半世紀前、日本の建築界では、首都高速道路の開通、オリンピック関連施設の竣工、東海道新幹線の建設、日本初の超高層建築である霞が関ビルのオープンなどの話題があふれる時代であった。それから50年近くなる現在、未来の建設界における研究や技術開発のテーマや課題は何か、などに興味を抱きつつ今回の大成建設技術センターの技術見学会に参加した。9月27日（水）13時55分に東戸塚駅に集合したのは学生7名を含む計22名の参加者である。東戸塚駅から送迎バスで10分ほどのところにある技術センターの歴史は古く、かつて豊洲にあった実験場を現在地へ移転した。その後、各種実験施設の増設を経て2001年に技術センターに名称変更した。その後も津波造波装置、建設ITC実験棟、クリーンテクノロジー実験施設、ZEB（zero energy building）実証棟、構造実験棟、音響風洞実験棟などを増設してきた。現在は34,822㎡の敷地に12棟の実験施設を持つ。

当日は、全員都市大OB、齋藤祐二都市基盤研究部長兼環境企画室長はじめ佐藤康弘さん、伊藤宏さん、梅田和彦さん、鹿毛比奈子さん。東京の設計本部から鈴木裕美構造設計第一部長、徳野博子さん、石川真吾さんと関係者の皆さんが出迎えてくれました。

■ZEB 実証棟  
2014年に竣工した地上3階の都市型オフィス実証棟は、省エネからゼロエネを実現し、環境大臣表彰・省エネ大賞を受賞し、日本初の建築物省エネルギー表示制度の最高ランク（評価第一号）と米国建築環境性能認証制度で最高ランクの認証を受けている。一年間の実証実験でのエネルギー消費量は一般的な建物の1/4程度で、消費量が463MJ/㎡年、太陽光発電による創エネルギーが493MJ/㎡年で、建物単体で年間エネルギー収支0を達成している。原発問題でベースロード電源の構成が揺れ動く中で、地球温暖化の抑制にも繋がる省エネ（ゼロエネ）意識を高めるためのモデル建築といえる。有機薄膜太陽電池外壁ユニットや低照度タスク＆アンビエント照明システム、自然光を天井面に照射して眩しさ感を抑えつつ室内の明るさを向上させるT-Light Cube、燃料電池の低温排熱を有効活用し吸着式冷凍機で冷水をつくる排熱利用タスク＆アンビエント空調システムなど様々な工夫を見学することができた。また、本実証棟は高密度市街地で建築面積を最大限確保できる免震装置が支えている。

■構造実験棟  
1) 三軸振動台 大地震の三軸方向の揺れを実現できる  
2) 大型耐震実験装置 鉛直20MN、水平6MNの載荷能力を持ち、構造部材の耐震安全性を検証できる

■音響風洞実験棟  
近年の高層マンションなどの建設に伴い問題が起きている風により外装材に発生する騒音の影響を評価する

■クリーンテクノロジー実験施設  
小型で簡便な100㎡程度のクリーンルームの実証実験を行っている

■耐火火実験棟  
最大20MNの荷重を加えながら、実物大の柱や梁の耐火性能を検証できる

■水理実験棟  
任意波形の津波（最大16m高に相当）を再現し、津波の挙動と構造物や周辺への影響を評価できる

■建設ITC実験棟  
最近話題のITCを活用した建設機械・重機の遠隔操作、無人化、情報化施工技術の性能を検証する

以上の実験室、実験装置の説明の後、バーチャルリアリティシステムを体験した。このシステムは、竣工時の様子を建設中から、周辺や内部、居住性や快適性まで立体視して実際のスケール感を仮想体験できる。かつて模型やパースを活用して完成時の姿を想像していた古き世代の私にとっては、あらゆる高さ、角度から完成時の姿を見ることができるので、関係者の打ち合わせ時には強力なプレゼン装置になると思われた。コンサートホールのデモでは、1階席と2階席におけるバイオリン演奏の響きの違いを確認でき、また屋内の空調の温度分布なども可視化できるので楽しくも有効な手段である。2時間にわたる施設見学は、一種のサイエンス＆テクノロジーミュージアムの見学のように知的好奇心をそそられるものであった。

見学後、大成建設の皆さんとの懇親会は、OB、OG会のようにでも楽しい話題で交流の輪を広げることができました。今回の技術見学会を企画してくれた如学会の皆さん、お世話になりました。今後もこのような企画で参加者の皆さんの知見や好奇心を高めると共に親睦の輪が広がることを願っています。最後に大成建設技術センターが21世紀の誰もが豊かで安全安心に暮らせる住環境、快適な労働環境、世界に誇れる都市・まちづくりを目指し、一層の研究・技術開発を促進して欲しいと期待しています。

注）大成建設 技術センター 配布パンフレットより転載（パンフ掲載の際）  
懇親会写真提供 大成建設 梅田和彦氏

## コトブキシーティング技術見学会

2018.02.28 [水]

芝本敏彦 (S59 卒／山下設計)



スタジアム運営を熱く語る千葉本部長



内観写真と実物を連携した展示に実感



日本全国に納品された劇場椅子が集結



高さもアジャスト可能な教室の机椅子

出席者：阿部 寧、鈴木 亨、山岡 嘉彌、井上富美子、丹羽 譲治、勝又 英明、露木博視、（以上如学会）城所友莉奈、阿佐南帆子、永井響子（都市大勝又研）、篠田隆、島田直樹（TAK）、櫻井 ちると、宮崎 励、石川 綾（建築画報社）

東京五輪も近づき、建設中の新国立競技場の進捗、他の競技施設が気になりこの度の見学会を企画しましたが、平昌冬季五輪の熱狂も冷めやらないタイミングとなり、会場のショールームは熱気を帯び、終了時刻よ、来ないで！の気分でした。コトブキシーティングは2010年にサインのコトブキとは分社化され、その前年に当地に移っています。（文中では紛らわしくて恐縮ですが、コトブキとします。）

■スタジアム収益向上■  
始めに、納品実績のある劇場椅子が並べられた地下のプレゼンルームへ。各自思い思いの椅子に腰かけ、千葉営業本部長のご講演を賜りました。スタジアムの収益はまだまだ上げられるとの米国の先進事例を紹介、著名歌手の数年先まで公演契約を押さえる企業、日本も将来追随できる可能性を示されました。ドーム公演では、同じ料金なのに不公平さを感じますね、また広島や仙台の球場に見られる野球観戦の多様な楽しみ方の実践例を思い出し、サッカー、コンサートもこれに追随できるという講師の知見に目が開く思いです。一方で、改修ラッシュで入れ物が減る危機「2016年問題」を経て、著名アーティストのコンサートチケット入手困難問題は、転売の横行、是非見たい高額買取など根絶には程遠いように思えます。収容人数を減らしラウンジなどの収益施設を増し、一旦入場した者から更なる収益を見込んで総収益を上げる考えは、日本でも馴染むのか。ゆったり飲食を楽しめる席を持つライブハウスもありその流れも否定できません。どうなるか。

■設計活動と重なる■  
企画時には意図しておりませんでした。劇場、スタジアム、学校などの様々な椅子に囲まれ、今までの自身の設計活動と、かなりオーバーラップする見学会となりました。大阪駐在時の丸亀市民球場、道の駅日光・ニコニコ本陣のロールバックなどと共に思い出される長野五輪メインプレスセンター。設計時に一目ぼれで提案した椅子、当時商社が扱っていた仏国キネット社、今はコトブキ傘下です。今考えると至極当然ですが、当時はメンテナンス面で提案が却下されました。それではと再検討し、実際の受注はコトブキに落ち着きました、不思議な縁を感じます。

■議場を多目的に使う■  
議場家具のコーナーには、キャスターがついた机椅子が展示されています。なぜ議場の机を動かす必要があるのか、とお思いでしょう。議場を多目的ホールと位置付け、議会開会時、多目的に活用し使用頻度を高める実例がいくつかあります。千葉県東庄町役場庁舎においてこれを実践しました。カタログから触発され、円形の議場周囲を半周取り囲む傍聴席下部に机椅子を収納しました。簡単に収納でき、平場を確保することが肝で、今でも庁舎建設の際に、多くの視察があるとの町長の話を昨年末、挨拶でお邪魔した際に伺ったところでした。

■可動舞台・ロールバック・スライド収納椅子■  
可動モノにも目を奪われます。座面後端が迫り上がる講義椅子は今後慣れが必要、座面を跳ね上げるロールバックチェアは収納時に驚く様相、化粧扉が欲しいか。可動式舞台は電動、手動とも展示、動きや手ごたえを確認できます。手動式は、ダンパー装着で軽く、安全確保にも拔かりがありません。私も、こども園設計の折に女性の保育士が無理なく安全に操作できるか確認のために訪れました。

■既設を生かす改修への取り組み■  
劇場改修にも様々な実例が。大勢を詰め込んだ昭和の多目的ホール、快適性向上のため座席間隔を拡大、座席数を減らす改修は一般化していましたが、設置当時の重厚なフレームを保存再生、クッション、生地張替えを依頼されるケースもあるそう。元々の座席配置に余裕があれば今の時代感覚にはマッチしますね。

■カプセルホテルの深化■  
コトブキは、カプセルベッドも製造しています。その特殊性、多様性から深夜番組「タモリ倶楽部」でも「毎度おなじみ…」と取り上げられ認知度を高めました。従来の収容効率重視から、法規制により間仕切らずに高めた「個室感」、実質面積拡大、スペースが格段に減ったLED間接照明の演出など、日本人の飽くなきニーズに柔軟に対応し、たゆまない発展がうかがい知れます。

■ショールームは古き良き建築■  
コトブキが入手したこの建物は、元々馬事畜産会館の所有、私の所属事務所の元設計だったことを今知らされました。低い階高を、天井を取り去ることにより豊かで新鮮な空間に生まれ変わっています。見学では営業開発部葛西さんはじめ社員の皆様の実演や、質疑回答など見学者の我儘に答えて下さりました。ずいぶんメーカーの宣伝をしてしまった感もありますが、駿河台の恵まれた立地も含め、設計者が足を運びたい施設に間違いはありません。コトブキの皆さま、この度は全面的なご協力、ありがとうございました。ご出席の皆さま、ご参加ありがとうございました。

■CPD申請、新築・改修PJの紹介■  
事業委員会では、昨年度の行事からCPD申請を開始し、学外の方も参加されます。毎回、JIAに申請し今回は2単位です。忙しくて参加が難しくても、累積は自己研鑽の証でもあります。開催は学生が参加しやすいよう、授業のない水曜日午後としています。今回は勝又研の学生の皆さん、学外から建築画報社、TAKの篠田社長はじめ設計者も参加し、年代、性別に偏らない出席者となり、交流の良いチャンスになったのではと自負しています。今後このような講演、見学の参加促進を目指し、告知、報告、卒業生の作品見学や他行事との連携などを充実させ、如学会の更なる活性化の場となることを願います。







アンケートからみる  
感想の数々

図書館展

■都市大の卒業生に、これだけ国内外で活躍されている方が多いことに改めて驚かされました。(在校生父母・50代女性)

■都市大の団結力を感じました。(一般・女性)

■OBの活躍を拝見し、こちらの大学に預かっていただいている娘の将来が楽しみになりました。(在校生父母・40代女性)

■掲示物に書かれた文字があまりにも小さく、何を見て良いかわからなかった。(一般・60代男性)

大学展

■100人展については入学時にいただいた冊子で知っていましたが、今回先輩方、特に設計の授業で教えていただいている方々の活動を見えて良かったです。(在校生・20代男性)

■これが実務の世界なのだと感じました。(在校生・20代男性)

■夏の「特別講義」で講師をされていた方々の作品を実際に見ることができて良かったです。(在校生・20代女性)

■自分は建築を見ることが好きなのだという発見がありました。(他学部在校生・20代男性)

■意匠の分野だけでなく、構造の分野やインテリアデザインなどの建築の細部についても勉強しようと思いました。(在校生・20代男性)

■方向性の異なる作品群が、都市大OBという枠で一覧でき、面白かったです。(一般・50代男性)

■社会人になる時に縦のつながりが役に立つので、こういう企画は有意義だと思いました。(一般・40代女性)

■将来、私もこんな仕事をするのかなと、わくわくした。(高校生・10代女性)

■都市大のOBが活躍されていることを目の当たりにすることで、より一層ここで学びたいと思うようになりました。(高校生・10代男性)

■同期のOBが活躍していることを知れて良かったです。(如学会OB・女性)

■こんな素晴らしい展示をしている大学は他にありません。他大学のOB達も羨ましく我々を見ています。皆で盛り上げましょう！(如学会OB・男性)

建築100人展2017  
図書館展・大学展・浅草展  
ドキュメント



150人以上の卒業生の活躍をパネルや模型で紹介。

浅草で10日まで、東京都市大学建築学科の同窓会「如学会」が、多岐にわたる活動を紹介する。卒業生の活動を紹介する「建築100人展2017」を開いた一写真。同大建築学科と同大校友会が共催した。2日のオープニングパーティーであいさつした山岡嘉彌如学会会長は「幅広い建築の分野に約8,000人の多種多様な人材を輩出してきた建築学科OB、OGの多岐にわたる実社会での活動を紹介するこの展覧会もことしで12回目を迎える。ご多忙の中、労をいとわずご出展いただいた同窓生の皆さまと所属企業を始めとする関係各位の理解と協力、支援に心から感謝したい」と語った。長さ100年に及ぶ展示スペースには出展者の最新作品のほか、過去の代表作、自信作などが多彩な表現により掲示された。在校生の3つの研究会による「浅草」をテーマとした研究発表/パネルや模型、インスタレーションなども展示され、訪れた市民の関心を集めていた。

浅草展

■日本全国で活躍されているOBがたくさんいらっしゃることを知ることができました。息子もその一員になれば嬉しいです。(在校生父母・50代女性)

■いつか自分もこういう場に作品を出せるように頑張ろうと思いました。(在校生・20代男性)

■ギャラリートーク、ワークショップなどイベント的なものがあると盛り上がるのではないのでしょうか。(本学教授)

■誰の作品が分からないものがあつたので、そこが分かりやすければよかったと感じました。(在校生・20代女性)

■何度も行ったことがある建物都市大の先輩の設計だと知り、興味を持ちました。(在校生・20代男性)

■先輩方が意匠や構造だけでなく、様々な分野で活躍されていることがわかりました。(在校生・20代男性)

■先輩方の素晴らしい作品を見て、自分もこのレベルまでいきたいと思いました。(在校生・20代男性)

■模型の展示が少なかったように感じました。模型があるだけで内部空間のイメージが一層深まると思いました。(他大学・20代女性)

■建築の完成図だけでなく、どうしてこのようなデザインになったか等、コンセプトやダイアグラムをもっと見たかったです。(他大学・20代男性)

■ふらりと立ち寄らせていただきましたが、どの作品も素晴らしく見入ってしまいました。(一般・30代)

■どれも各分野において特徴のある建物で、卒業生の層の厚さに感心しました。(一般・男性)

■通りすがりでしたが、知っている建物が多くて楽しめました。(一般・40代女性)

■礎を造られた先人の方々のプレゼンテーションに如学会の歴史を感じた。(一般・60代男性)

■もう少し模型や映像などパネル以外の展示があれば良いと思いました。(一般・30代男性)

■子供と一緒に家族4人で見学させていただきました。それぞれ住んでみたい作品があつて楽しめました。(一般・40代女性)

■素人が見てもおもしろい展示でした。(一般・女性)

■継続していることに敬意を表します(如学会OB・男性)

建設系2誌が「100人展」を紹介



東京都市大「如学会」建築100人展。東京都市大学建築学科の同窓会「如学会」は、東京都台東区の隅田公園リバーサイドギャラリーで卒業生や在校生の作品などを展示する「建築100人展2017」を開いた一写真。同大建築学科と同大校友会が共催した。2日のオープニングパーティーであいさつした山岡嘉彌如学会会長は「幅広い建築の分野に約8,000人の多種多様な人材を輩出してきた建築学科OB、OGの多岐にわたる実社会での活動を紹介するこの展覧会もことしで12回目を迎える。ご多忙の中、労をいとわずご出展いただいた同窓生の皆さまと所属企業を始めとする関係各位の理解と協力、支援に心から感謝したい」と語った。長さ100年に及ぶ展示スペースには出展者の最新作品のほか、過去の代表作、自信作などが多彩な表現により掲示された。在校生の3つの研究会による「浅草」をテーマとした研究発表/パネルや模型、インスタレーションなども展示され、訪れた市民の関心を集めていた。

小林茂雄

東京都市大学  
建築学科教授



「100人展・浅草展」の照明計画とプロジェクト

建築100人展浅草展で、エントランス周りをライトアップさせていただきました。4年生の岩澤勇佑君が担当し、ステージ用の器具を活用して、浅草らしいレトロでロック調の光を広場にまわせることを意図しました。100人展のバリエーションの豊かさも表現しようとしたのですが、うまくいかなかったこともあつたため、来年も機会があればさらに良いものをと考えています。今年の100人展は1年生に見学してもらい、「卒業生のプレゼンから学ぶこと」をテーマにレポートを書いてもらいました。模型の表現、設計プロセス、環境や構造技術の示し方などを学んだようです。小林研究室では、以前は大学キャンパスをライトアップする「キャンパスイルミネーション」に取

り組んでいましたが、最近は、地域の人たちと街をライトアップすることに力を注いでいます。住吉洋二先生が長年まちづくりに携わっていた山形県金山町では、2014年から街並みのライトアップを開始し、現在は公園や役場などの公共施設だけではなく100軒以上の住宅に金山らしい照明が取り付けられるようになりました。ライトアップのイメージソングやCMも学生たちが制作し、山形県内のテレビで放送されました。2018年の3月下旬から4月上旬までは、都立大学駅近くの桜並木のライトアップを行っています。桜をライトアップするだけでなく、地下を流れる香川を光で可視化することをコンセプトにしてい

て、東京都主催のコンペで採択されました。新しい手法にチャレンジしようとしていますので、ご覧いただきご助言いただけると嬉しいです。3年前から慶應義塾大学で非常勤講師をすることになり、本学と同じ授業をしながら学生の姿を比較したりしています。そこで感じるのは、学力的にはほぼ互角であることと、どちらかといえば都市大の学生の方がより素直に貪欲に力を発揮しようとする傾向があるということです。特に協同作業で顕著に表れます。これは長年培われた建築学科の伝統に由るところが大きいのではないかと感じています。本学の学生は言葉による説明がやや苦手なところもあるのですが、この校風の良さと各人の能力を信じて、良いところをさらに伸ばしていくようにできればと思っています。

如学会主催、建築学科・校友会共催「建築100人展 2018・大学展+浅草展」出展者募集

卒業生100人の社会における活動を紹介します。

大学展：2018年11月3日[土・祝]-11月4日[日] 会場：建築学科棟（東京都市大学世田谷キャンパス4号館）

| 11/2 [金]                                                                  | 11/3 [土・祝]                           | 11/4 [日] | 11/5 [月]                      |
|---------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|----------|-------------------------------|
| 搬入・設営日                                                                    | 「建築100人展 2018〈大学展〉」 10:00~18:00 入場無料 |          | 搬出・撤収日                        |
| 各自で搬入又は郵送<br><small>詳細は今後のホームページ、メールマガジン「如学会NEWS2018秋号」にてお知らせします。</small> | T C U祭                               |          | 出展作品は委員の手により搬送、保管の上「浅草展」会場に移動 |

浅草展：2018年12月1日[土]-12月9日[日] 会場：隅田公園リバーサイドギャラリー（予定）

| 11/30 [金] | 12/1 [土]                             | 12/2 [日]                       | 12/3 [月] | 12/4 [火] | 12/5 [水] | 12/6 [木] | 12/7 [金] | 12/8 [土] | 12/9 [日] | 12/10 [月] |
|-----------|--------------------------------------|--------------------------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|-----------|
| 搬入・設営日    | 「建築100人展 2018〈巡回展〉」 10:00~18:00 入場無料 |                                |          |          |          |          |          |          | 搬出       |           |
|           | オープニングパーティ                           | 搬出車両に荷積みし、倉庫に保管<br>後日、大学にて郵送作業 |          |          |          |          |          |          |          |           |

■募集内容参考例

ジャンルの特定は致しません。多分野からのご出展を受け付けております。

- ・意匠（建築設計／インテリア）
- ・構造
- ・施工／工法（施工や管理における提案など）
- ・建築材料（開発や研究を含む）
- ・環境／設備（空調計画や照明計画など）
- ・ランドスケープデザイン
- ・家具／プロダクトデザイン
- ・写真／グラフィックデザイン
- ・アート
- ・ワークショップ活動記録
- ・メディア記録（雑誌の編集発行/WEBによる情報発信）

■「100人展」出展は建築界、企業、大学等への「登龍門」となっています。

企業に所属されている若い方々の出展を歓迎します。

■ご自身での出展準備・搬入・搬出が困難な方はお手伝い致しますのでご相談ください。

会 期：2018年11月3日[土・祝]－4日[日]（搬入：11月2日/搬出11月5日）  
会 場：東京都市大学世田谷キャンパス4号館・建築学科棟1階グランドギャラリー（製図室）  
郵送・搬入先：〒158-8557 東京都世田谷区玉堤1-28-1  
東京都市大学建築学科 担当 鈴木浩宛（郵送の場合は、11月2日午前必着）  
出 展 料：7,000円（如学会会費未納者は会費+出展料=10,000円）（予定）  
振 込 先：みずほ銀行 自由が丘支店 普通口座：1779875  
口座名：ジョガクカイ「如学会」

■出展希望・問い合わせ連絡先

建築100人展実行委員長 丹羽謙治  
E-MAIL: 100ninten2018@jogakkai.jp



# 女流ファイルー Part17

社会の多方面で活躍する女性卒業生を  
順次ご紹介しています。



ANELLI nagaoka



ワンランク上の屋外照明「ZERO」シリーズ

## 小口尚子

■file-84 光と影をつくること

(H17 卒)



OGUCHI Naoko  
2003 年 武蔵工業大学建築学科卒業（小林研究室）  
2005 年 武蔵工業大学大学院修了（小林研究室）  
2005 年 大光電機株式会社入社

私は在学中小林研究室で、落書きの研究や、光環境と音環境が人へ及ぼす影響などの研究をしていました。その流れで照明の世界に興味を持ち、照明メーカーに入社しました。入社以来、TACTという部署で空間の照明計画をしています。(TACTとは、建築家やインテリアデザイナー、施主の方々が意図する空間に最適なライティングプランを構築し提案する部署で、企画立案からライティングまでトータルにサポートしています。全国で110名ほど在席しており、専業メーカーでも珍しい部署です。)

入社当初は、内装施工のお客様を中心に物販店や飲食店を多く手掛けていました。全国にチェーン展開している物販店を年間200店舗手がけた時は、どこに出張しているのかわからなくなる位、竣工スピードについていく事に精一杯なこともありましたが、短いスパンで現場がたくさんできあがっていくので、その中でお客様と実験的な試みを行ったり、より良い光環境を提案してブラッシュアップしていくのはとても貴重な経験となりました。今は結婚式場や施設を中心に幅広く照明計画させていただいており、物件以外では照明についてのセミナーを行ったり、広報の仕事等を行っています。

照明計画を進めていく上でひとつの指標として、光の明るさを数値で表す単位として照度がありますが、「明るい」「暗い」と感じる感覚は本当に人それぞれなので照度の数値があてになることは実は多くはありません。いかにきれいな光と影をつくるのか、お客様とできる限りコミュニケーションをとってお互いの感覚を共有・共感し、形にするのがこの仕事の最大の魅力だと感じています。現場が出来上がってお客様のご意見を聞く瞬間が一番緊張しますが、一番勉強になる瞬間でもあります。最近では同じ学科出身の同級生がクライアントになる機会も増えてきて、自分が照明業界に進んだことで色々な形で繋がりを持てることが更に面白いです。

これからは、インハウスのデザイナーとして自社の強みを生かすだけでなく、照明デザイナーの方や他メーカーの方とも手を取り合っている光環境を創ることが特に求められていると感じています。建築業界の方のみならず一般の方でも、家のような身近な光から街の光まで、もっと興味を持ってもらえるように啓蒙していくと同時に、自分自身のデザインの力も磨いていき、建築をより良く魅せるお手伝いができればと思っています。

(大光電機)

■file-85 心地いい暮らしをつくるためのヒントを探る

## 辻 洋美

(H14 卒)

TSUJI Hiromi  
2002 年 武蔵工業大学建築学科卒業（小林研究室）  
2002 年 トステム入社 商品本部 デザインセンター配属  
2011 年 LIXIL 営業カンパニーハウジング企画部を経て  
2015 年 - マーケティング本部 スペースプランニング部

もともと住まいに興味を持っていたことから、住宅設備や建材の開発に携わりたいと考え、入社を決めました。入社後はデザイン部門に配属され、玄関ドアやインテリア建材、キッチン、洗面など様々な商品のデザインに携わりました。デザイン部門の業務は多岐にわたり、住宅デザインのトレンド調査に始まり、同ジャンルのプロダクトについての調査分析、デザインコンセプト立案、デザイン提案、商品色やテクスチャーの企画などを行ないました。2011年からは営業支援の部門に移り、家一棟目線で暮らしや住まいを提案する仕事になりました。主な業務としてはエンドユーザーの調査や定量調査、調査から導き出した仮説をもとに心地いい暮らしにするための商品や住まい方の提

案、展示会での空間計画～商品コーディネートなどを行っています。エンドユーザー調査では毎回注目するテーマを決めて、住まいの訪問調査を行います。テーマは"小学生の子どもがいる住まい"や"忙しい共働き夫婦の住まい"、"建築家が設計したこだわりの住まい"など様々で、新しい暮らしや住まいのあり方を見つけ出せそうなテーマを選んでいきます。実際に住まいを訪問させていただいて、毎日の暮らしや住まいに関する困りごと、家づくりのこだわりなどをヒアリングしていますが、想定外の暮らしが見えたり、多くの気付きを得ることができます。毎日の家事や収納の使い方、家族とのコミュニケーションの取り方なども様々で、それぞれの生活スタイルの中で工夫をされていま

す。実際の暮らしで求めていることと、企業側の考えや開発の方向性には大きなギャップがあると感じることも多いですが、そのギャップを受けとめて開発部門と共有したり、営業支援の提案に盛り込んでいくことで、より消費者目線の商品が開発できるのではないかと感じています。住まいづくりは奥が深く、窓の配置ひとつで空間の印象や心地よさが変わったり、収納扉を付けるか付けないかでも片付けのしやすさや習慣でも変わってきます。様々なライフスタイルの住まいと暮らしを見ることで新しい発見を積み重ねながら、心地いい住まいづくりに貢献できるような仕事をしていきたいと思います。

(LIXIL)



WLB支援のガイドブック発行およびサービスを導入

就職氷河期、私が就職活動をしていた2000年当時は男女問わず就職が大変厳しい時期でした。今では大問題となりますが、女性というだけで資料が送られなかったり、採用選考に進めなかったりがまかり通っていた時代です。私も3年生の秋頃からスタートした就職活動では建築に関する仕事では内定出来ず、このまま就職できないのではと不安でいっぱいでした。5月以降方向転換をし、理系というだけで大歓迎されたIT系企業から内定を得ることができましたが、建築を学んだ4年間をどう生かせるのだろうかと悶々としていたことも事実です。9月頃に偶然、就職サイトを経由して前田建設からIT系の新卒社員追加募集の案内がありすぐに飛びつきました。説明会申込時に電話で「女性ですが応募できますか」と聞いたところ「問題ありませんよ」と言われたことに安堵した記憶があります。そんな経緯で私は前田建設に入社しました。

## 成田朝映

(H23 卒)

■file-87 社会の、当たり前、を支える仕事



NARITA Asae (旧姓：加藤)  
2011 年 武蔵工業大学建築学科卒業  
(勝又研究室)  
2011 年 NTT ファシリティーズ 入社  
都市建築設計部 配属  
2013 年 長野支店 配属  
2014 年 北関東・信越支店(埼玉)配属  
2016 年 南関東支店(神奈川)配属

電話やメールがいつでもできるのは当たり前、街中でネットが繋がらないなんてあり得ない。学生時代はそう思っていました。その当たり前の生活を、建築の面から支えることが現在の私の仕事です。

今所属している部署では神奈川県内に存在する約200棟のNTTの建物について、中長期整備計画の策定から工事の設計・監理までを担当しています。NTTの建物には人々に電話や通信サービスを提供する装置が収容されています。大災害の発生時にも通信装置に影響を及ぼさないよう、一般的な建物が守るべき法適合だけでなく、独自に定められた高い性能水準を満たすことが要求されます。

この建物のライフサイクルを管理して要求性能を保つよう改修していくことで、社会の通信インフラを支える役割を担っています。

入社直後に実感したのはとにかく知らないことが多すぎるということ。

企画・設計・工事それぞれのスキームの多数の案件を遅延なく進めるには解決すべき課題に対して

■file-86 建設業界全体で働き方改革と生産性向上を共に実現したい

## 伊藤彩子

(H13 卒)

ITO Ayako  
2001 年 武蔵工業大学建築学科卒業（安藤研究室）  
2001 年 前田建設工業株式会社入社 情報システムサービスカンパニー  
2005 年 人事部



2001年の入社から4年弱は情報システム部門で、システム開発や導入、運用を担当していました。転機は2004年冬、当時の人事部長から直接「人事部に異動してほしい」と打診があり2005年1月から今に至るまで人事部に所属しています。

人事部では、採用・教育・制度運用など様々な業務を経験してきました。建築学科出身ということもあり、自分の経験をいかして理工学系の方と接することができたと思っています。現在も東京都市大学のリクルーターをしており、毎年学校で開催される就職説明会に参加しています。( 年々学校がきれいになっていく過程を10年以上見ることが出来ました)

2013年に出産し育児をしながら勤務をしています。まだまだ男性大多数(約9割が男性)の会社ですが、自分の出産や育児をきっかけとして、もっと働きやすい会社に変えたいという思いから、性

別や年齢、国籍や嗜好、個性に至るまで多様な人材が活躍できるようにとダイバーシティ推進チームを立ち上げ、制度の立案や導入および実行、建設現場のトイレや更衣室などの環境整備、セミナーや理解促進のためのパンフレット制作など様々な施策を実行しています。女性が出産育児を経ても働き続けるためには男性の家事育児参画が不可欠です。建設業というどうしても過重労働と思われるがちですが、これからはそのイメージを払拭していかなければなりません。

ワークライフバランスの本質は、仕事と生活のどちらかに偏るのではなく、社会的活動を含めたライフとワークの充実が生み出す相乗効果にあるものだと思います。これからも建設業界全体で働き方改革と生産性向上を共に実現できるよう施策を推進していきます。

(前田建設工業)

迅速に対処していく必要があり、広い知識が求められます。

自分にできることを増やす為に、まずは見ることに、知ることが必要だと考えました。先輩社員の現場に同行させてもらったり、一級建築士、一級建築施工管理技士、建築積算士、その他業務に関わる資格を取得したりして知識の幅を広げるよう心掛けてきました。

基礎知識が身につけてくると次第に、改修工事の難点である「既存部分による制約をどのようにクリアしていくか」ということが、仕事の面白さに繋がっていきました。

設備の更改をしたいが設置スペースがない、RC壁面に開口を設けたいが躯体の構造耐力が足りない、繊細な重要機器が並ぶ室内を改修したい…など様々な課題に対して、設備担当や構造担当と共に解決策を探っていきます。

設計段階の課題解決の為はもちろん、施工段階においてもできる限り現場に足を運び、図面上だけでなく現物をみて納まりを確認するようにしてい

ます。

案件の多くは工期が1年未満と短期間ですが、こうして企画から実施設計、工事監理を通して竣工までを担当できるので、それぞれの案件に思い入れがあり完成時の喜びもひとしおです。

入社して7年経つ今でも自分の能力不足を痛感して悩むことが多々ありますが、学生時代に漠然と考えていた「建築を通じた社会貢献」が仕事として明確なものとなり、やりがいを感じています。

通信インフラを利用した遠隔での様々なサービスが発展し、人々が場所に縛られない生活へと社会の在り方は変化しています。

通信インフラの重要度が高まるとともに、その安定供給を支える建物の在り方も変化し、求められる性能や改修の手法も、新しい技術と共に進化を続けることでしょう。

今後更に経験を重ね、時代の需要に対応できるスキルを身に付けて、ひとの生活を支え続けていきたいです。

(NTTファシリティーズ)



## 同窓会誌『武蔵』から — 如学会初期の頃 —

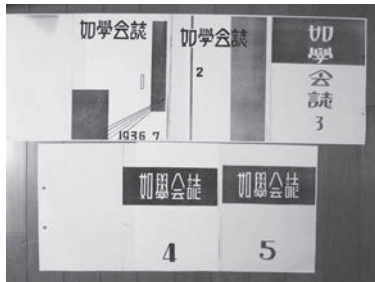
阿部 寧 (S38 卒／NPO 法人 建築・街づくり支援センター)



蔵田周忠先生



「武蔵」昭和9年5月号



如学会誌第1～第5号



「武蔵」合本(大学図書館蔵)

如学会の過去を知る上でよりどころとなる資料が二つある。それは『武蔵』と『如学会誌』である。前者は私たちが馴染みのあった会報で、創刊号は昭和9年(1934)5月(武蔵工業会発行)。これは現在の校友会発行『都市』の前身に当たる。後者は昭和11年8月第1巻第1号から5号までと、昭和38年及び41年に各1冊発刊されている。

この度、武蔵工大の機関紙『武蔵』のバックナンバーを調べる機会があり、昭和9年時代の『武蔵』に掲載されている「如学会」の報告記事に偶然触れることができた。故蔵田周忠教授が30歳代で建築教育に燃えていた時代であったと想像する。(合本の写真：東京都市大学図書館収蔵から)私はかねてより如学会がいつ頃からはじまったのが気になっていた。それが今回『武蔵』から読み取ることができた。古い時代を感じさせる文章表現に多少読みづらさがあり、少々手間取ったが、時代的背景が読み取れてとても興味が湧いてきた。

昭和9年は第二次世界大戦勃発(1939)の時代だったので、当時の学園の社会的、学究的環境を知ることができ、先人のご苦勞を窺うことができた。私が生れる直前だったそんな時代に、すでに如学会が存在していたことに感銘を覚え、認識を新たにしたわけである。歴史を辿ることは、現在を知り将来を考える上でよい情報となって活かすことができるものと思う。そんな意味でも如学会の過去の実績をここで知ることができたので大変有意義であった。現在あるのは、過去の蓄積があつてのこと。如学会の歴史の重さを感じた。ちなみに、土木学科の「緑土会」も同時に活躍していた。当時の『武蔵』には、毎回、如学会と緑土会の報告記事などが掲載されていた。如学会の報告記

事の執筆には蔵田教授(写真)のお名前がいつも登場していた。

さて、ここでお断りしておきたいことがある。上記2種の資料を探っていくと今回の寄稿だけでは伝えきれないおもしろい情報がたくさんあるので、会員のみなさんに知っていただくため、今後『如学会NEWS』に数回の連載が必要になることをご了解いただければということである。小生にとっては、少々手間のかかる用件になるが、それは承知の上であり、なんとか努力したいと思う。当時の活動を知ることによって、今日を考える上で参考になればよいと思っている。如学会の古い時代を知れば、また何かがヒントになるかもしれない。昭和9年の『武蔵』には既に如学会の事業として次の活動が示されている。

- ① 講演会を開いて研修する「研究部」
- ② 参考資料の拡充を図る「図書部」
- ③ デッサンで腕を鍛える「美術部」
- ④ 毎月2回を目指す「見学部」

の四つである。未来を背負い、次世代の文化を構築する建設事業に携わる学生の学び舎で、まさしく建築学科らしい内容に取り組んでいて、現在に通じることが読み取れる。但し、当時の如学会はまだ卒業生が少ないため、OB如学会ではなく先生が主導の在校生のための如学会(今の学生如学会に近い)であったことがわかる。次に、掲載記事に興味深い文章があったので紹介しよう。

“今や如学会は春風に乗って飛立たんとしている。この躍進こそ未来の構築を、次の時代の文化を建設するハンマーの音だ、今鉄骨を組んでいる、だから外見は美しくない、大建築はコツコツと組立てて行くのだ。見よこの大工事を、我々は黙々と建築している”

## 「都市大校友会オンライン」に登録をお願いします

校友オンラインプロジェクトチーム 露木博視(S55卒)

### ■はじめに

平成30年2月、東京都市大学校友会事務局から東京都市大学(旧武蔵工業大学)OB全員に右の案内状が送られました。突然の案内で戸惑われている方も多いと思います。本稿では、「都市大校友会オンライン」を理解し、「都市大校友会オンライン」に登録していただくことを目的としています。

### ■「都市大校友会オンライン」とは

「都市大校友会オンライン」は、東京都市大学校友会会員のプライバシーと個人情報の保護を最優先しつつ、会員情報をデータベース化したインターネットを利用した名簿情報管理システムです。

### ■「都市大校友会オンライン」はなぜ必要か

創立90周年を迎える本校にとって、今後一流の学校であり続けるには、OBが大学を活性化し、盛り上げてゆく必要があります。それには、OBの個々の力(データ)を結集し、学科・世代を越えたネットワークを構築し一体となることが不可欠です。

参考：早稲田大学では、OBが「MyWaseda」<sup>注1)</sup>に登録することにより、「稲門会」<sup>注2)</sup>の活動を知ることが出来、参加できるネットワークが既に活用されています。

- 注1) 学生、教職員、校友のすべての人が利用する早稲田大学のポータルサイト  
注2) 早稲田大学卒業生の活動団体。1,300団体以上が登録されている

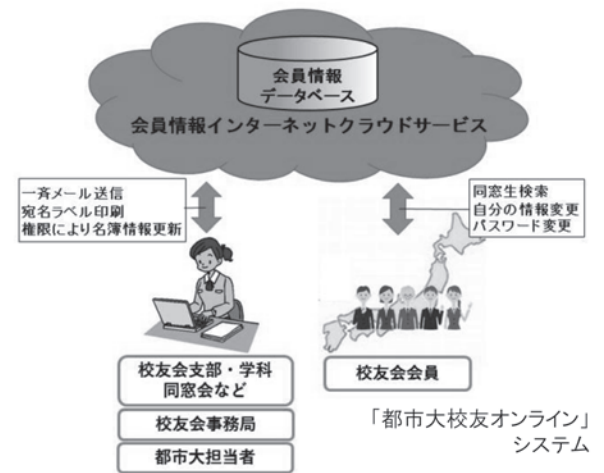
### ■「都市大校友会オンライン」登録によるメリット

- 「都市大校友会オンライン」に登録すれば、
- ・校友会会報誌「都市」が、毎年必ず送られてきます。
- ・校友会、支部から様々なイベントの案内が届きます。
- ・同級だけでなく、『学生時代同じサークルに所属していた他学科、他学年の友』を検索・捜し出すことが出来ます<sup>注3)</sup>。
- ・引っ越し後、校友会への住所変更が自分自身で容易に出来ます。
- ・同窓会を開催するときに要となる、名簿が容易に作れます。

注3) 個人の登録設定により、自宅住所などの情報を開示しない設定も個別に可能です。



「都市大校友会オンライン」案内状



「都市」同窓生検索画面

## 「都市大校友会オンライン」に登録をお願いします 一初期登録手順一

### 【事前準備】

- ①『「都市大校友会オンライン」の導入について』に記載されている 会員IDと初期パスワードを確認する。
- ②登録には、パソコンまたはスマートフォンで利用している登録者自身のメールアドレスが必須です。・

### ■Step-1

- ①パソコンまたはスマートフォンで、東京都市大学 校友会のホームページ(右画面)を開く。  
<http://www.tcu-alumni.jp/>
- ②画面中段右端の「都市大校友会オンライン」アイコンを選択する



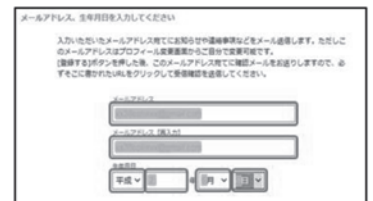
### ■Step-2

- ①「ユーザID」と「パスワード」の入力画面が表示される。
- ②案内状に記載されている「ユーザID」と「パスワード」を入力し、『ログイン』ボタンをクリックする。



### ■Step-3

- ①「メールアドレス」と「生年月日」を入力する。
- ②『個人情報保護方針に同意して登録する』ボタンをクリックする。



### ■Step-4

- ①「都市大校友会オンライン」の「ホーム」画面が表示される。
- ②登録修了
- ③「プロフィール確認・変更」ボタンをクリックすると「プロフィール確認・変更」画面になる。

※「都市大校友会オンライン」の操作マニュアルは、QRコードを読み込み、入手願います。





表彰

蔵田賞・如学会賞及び各賞

如学会では、建築学科卒業研究の顕彰として「蔵田賞」（卒業設計最優秀賞）と「如学会賞」（卒業論文最優秀賞）を授与しています。

建築学科教室の協議の結果、2017 年度「蔵田賞」に高橋万里江さん（福島研究室）、「如学会賞」に毛利亮太君（近藤研究室）が選出され、2018 年 3 月 19 日の学位授与式にて如学会会長の山岡嘉彌から記念品が贈呈されました。

|                                                                                                                                                                                                              |  |  |  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|
| ■蔵田奨学基金賞<br>高橋万里江（福島研究室）                                                                                                                                                                                     |  |  |  |
| ■如学会賞<br>毛利 亮太（近藤研究室）                                                                                                                                                                                        |  |  |  |
| ■卒業設計優秀賞<br>2018 年 2 月 9 日・15 日に卒業設計講評会が行われました。9 日は学内講評として専任の担当教員および設計演習担当の講師陣を審査員に、15 日は学外講評として岸和郎氏（京都造形芸術大学大学院教授）、青木弘司氏（青木弘司建築設計事務所）を審査員にお迎えし、審査の結果、下記の通りに個人賞が表彰されました。また、建築学科教室から下記 4 名が卒業設計優秀賞として表彰されました。 |  |  |  |
| ・卒業設計優秀賞<br>高木 駿輔（手塚研究室） 落合 志保（福島研究室）<br>梶谷紗世子（福島研究室） 住司 峻（堀場研究室）                                                                                                                                            |  |  |  |
| ・個人賞 ※当日会場にて表彰<br>高橋万里江（福島研究室） 岸 和郎賞 新居千秋賞 羽鳥達也賞<br>富川浩史賞 柏木穂波賞 松井 亮賞<br>桑原 茂賞                                                                                                                               |  |  |  |
| 高木 駿輔（手塚研究室） 能作淳平賞 井手 勤賞<br>高橋 沙季（小林研究室） 浅石 優賞<br>山道 峻介（手塚研究室） 栗田祥弘賞<br>落合 志保（福島研究室） 青木弘司賞<br>梶谷紗世子（福島研究室） 伊藤 暁賞<br>住司 峻（堀場研究室） 小栗幹雄賞                                                                        |  |  |  |
| ■卒業論文優秀賞<br>2018 年 2 月 13 日に卒業論文発表会が行われ、建築学科教室から下記の 12 名が卒業論文優秀賞として表彰されました。                                                                                                                                  |  |  |  |
| 佐藤 伸樹（天野研究室） 志村真之介（天野研究室）<br>釜 幸聖（勝又研究室） 宮崎 彩那（福島研究室）<br>井本 悠也（山口研究室） 横山 友美（岩下研究室）<br>亀山 怜（小林研究室） 江川 弥玖（大村研究室）<br>山本 拓（西村研究室） 山本紗世子（大橋研究室）<br>三沢 航平（小見研究室） 窪田 隆志（佐藤研究室）                                      |  |  |  |
| ■修士論文優秀賞<br>2018 年 2 月 14 日に修士論文発表会が行われ、建築学科教室から下記の 3 名が修士論文優秀賞として表彰されました。                                                                                                                                   |  |  |  |
| 中村 有歩（小林研究室） 河崎 守（大村研究室）<br>薦木 啓斗（佐藤研究室）                                                                                                                                                                     |  |  |  |
| ■修士設計優秀賞<br>2018 年 2 月 15 日に修士設計講評会が行われました。学外審査員に浅石優氏（東京都市大学都市生活学部・元教授）、新居千秋氏（東京都市大学客員教授）、岸和郎氏（京都造形芸術大学大学院教授）、青木弘司氏（青木弘司建築設計事務所）をお迎えし、審査の結果、以下の通りに審査員から個人賞が表彰されました。また、建築学科教室から以下の 1 名が修士設計優秀賞として表彰されました。     |  |  |  |
| ・修士設計優秀賞<br>村上 裕貴（手塚研究室）                                                                                                                                                                                     |  |  |  |
| ・個人賞<br>富谷 亮介（堀場研究室） 浅石 優賞<br>西尾 拓真（手塚研究室） 新居千秋賞<br>該当者なし 岸 和郎賞<br>石川 恵理（堀場研究室） 青木弘司賞                                                                                                                        |  |  |  |

## 2017 年度 卒業論文・修士論文

|            |                                                                                  |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 卒業論文       |                                                                                  |
| 天野研究室（計画系） |                                                                                  |
| 江川 優       | 大学校舎の機能構成と複合実態に関する事例研究                                                           |
| 岡本 拓己      | 我孫子ビレジ周辺の地域施設の整備実態と評価<br>ー郊外住宅地再生に関する研究その 2ー                                     |
| 佐々木 純      | 福井県越前市粟田部町島会館の活用に関する研究                                                           |
| 佐藤 伸樹      | 低層住宅地における戸建て空き家活用に関する研究                                                          |
| 志村真之介      | 戸建て空き家のシェアハウス転用に関する研究                                                            |
| 霜島 萌香      | サービス付き高齢者向け住宅居住者の居住歴からみる<br>終の棲家像 ー「ゆいま〜る高島平」を事例としてー                             |
| 進士祐一郎      | 我孫子ビレジにおける居住継承と改修実態<br>ー郊外住宅地再生に関する研究その 1ー                                       |
| 水落 真衣      | 東京都市大学世田谷キャンパスの備蓄倉庫の規模算定                                                         |
| 勝又研究室（計画系） |                                                                                  |
| 井上 慧彦      | 伝統的建造物の維持保全に関する実態調査<br>ー重要伝統的建造物群保存地区（大森銀山・温泉津）を<br>対象としてー                       |
| 小野 拓弥      | 中低層非住宅ビルカーテンウォールにおける工業化構法<br>の新たな形態の研究<br>ー重点課題とその解決手段の考察ー                       |
| 釜 幸聖       | 特別養護老人ホームにおける個室と入居者の状態に関す<br>る研究 ー福岡県にある特別養護老人ホーム H を対象としてー                      |
| 蔵光 裕       | 移動観覧席を持つ公立文化ホールの利用実態と活に関す<br>る研究 ー全国公立文化施設名簿に掲載されているホー<br>ルを対象としてー               |
| 近藤 来美      | 全国公立文化ホールにおける改修に関する実態調査<br>ー全国公立文化ホールへのアンケートによるー                                 |
| 中田 晶大      | 特別養護老人ホームにおける食堂レイアウトの変化と<br>入居者と職員の関わりから見た食堂に関する考察<br>ー福岡県にある特別養護老人ホーム H を対象としてー |
| 廣瀬 蒼       | 「伽藍の堂宇」と「本堂の構成」に関する実態調査<br>ー日本全国の未指定文化財の寺院本堂を対象としてー                              |
| 水島 峻       | 公立文化ホールの活性化の条件に関する研究<br>ーアンケートによる実態調査ー                                           |
| 福島研究室（計画系） |                                                                                  |
| 落合 志保      | 時代産物からみた日本の住居観に関する研究                                                             |
| 梶谷紗世子      | 生産と消費からみる郊外と都市の境界の研究                                                             |
| 宮崎 彩那      | お祭り行事と町の境界の関連性についての研究<br>ー神奈川県横浜市都筑区南山田町を対象としてー                                  |
| 堀場研究室（計画系） |                                                                                  |
| 鈴木 光       | 嘉右衛門町復元の研究                                                                       |
| 橋元 一成      | 福岡市内に展開する屋台の建築的機能に関する研究                                                          |
| 山口研究室（計画系） |                                                                                  |
| 楠本 健人      | 雑誌掲載事例からみた小学校オープンスペースの空間<br>構成及びその変化に関する研究<br>ーオープンスペース導入から現在までー                 |
| 黒木 美嶺      | 小学校の教室及びオープンスペースの利用状況と評価に<br>関する研究 ー秋田市立 K 小学校の事例についてー                           |
| 井本 悠也      | 東京都 23 区における公共施設等総合管理計画の実態に関<br>する研究                                             |
| 近藤 諒       | 学年別教科教室制中学校における生徒からみた利用状況<br>と評価に関する研究 ー秋田市立 G 中学校の事例についてー                       |
| 田中 優衣      | 学年別教科教室制中学校における教科教室の利用状況と<br>教員からみた評価に関する研究<br>ー秋田市立 G 中学校の事例についてー               |

|            |                                                    |
|------------|----------------------------------------------------|
| 岩下研究室（環境系） |                                                    |
| 菊池 有紗      | 行政による学校調査に基づく東京 ST 区におけるオープン<br>型・従来型教室の空気環境に関する研究 |
| 野田 僚平      | 学校環境衛生検査並びに建築物衛生管理法調査による空<br>気検査の妥当性に関する研究         |
| 青木 捷悟      | 知的作業負荷の違いによる人体の二酸化炭素発生量の<br>測定に関する研究               |
| 岡田 美月      | 室内環境の変化による負イオンの変化についての研究                           |
| 土田 和香      | 劇場における空気質の実測調査                                     |
| 廣野 李奈      | 小学中学高等学校の事故データによる屋内熱中症発生と<br>過去外気温度の影響             |
| 横山 友美      | 車両内二酸化炭素濃度を用いた車両混雑率の予測に<br>関する試験研究                 |
| 小林研究室（環境系） |                                                    |
| 赤根 亮介      | 気仙沼市八日町の街並み特性を活用した屋外光環境設備<br>の社会実験                 |
| 岩澤 勇佑      | 動的照明を用いた地下へのアプローチ空間への誘導と<br>環境演出の試行                |
| 奥井 優介      | 静岡県熱川温泉における照明改修による地域景観を向上<br>させる 夜間照明計画の提案         |
| 亀山 怜       | リゾートホテルにおける多様な屋内滞在行動を促進する<br>空間改修の提案               |
| 小林 華子      | 静岡県天城高原における自然環境と非日常性の体感を共<br>存させる照明計画              |
| 高橋 沙季      | 山形県金山町における住宅・道路混在型の夜間景観形成                          |
| 近藤研究室（環境系） |                                                    |
| 梅原 恭介      | 店舗入り口における二重エアカーテンによる漏入外気量<br>の低減効果に関する CFD 解析      |
| 毛利 亮太      | 高温発熱機器から発生する放射熱量の測定方法に関する研究                        |
| 横田 武士      | モンテカルロ法による高温発熱機器と周囲壁面間の形態<br>係数と 吸収係数の解析           |
| 伊東 直哉      | ASHRAE による高温発熱機器からの放射量測定方法とその<br>問題点               |
| 菊池 健生      | 自然換気時の屋内駐車場における効率向上に関する CFD 解析                     |
| 木村 賢人      | 冷凍倉庫モデルにおける二重エアカーテンの有効性に<br>関する CFD 解析             |
| 佐野凌太郎      | コアンダ効果を利用したホテル客室内のコールドドラフ<br>ト防止に関する CFD 解析        |
| 大村研究室（構造系） |                                                    |
| 小笠原飛翔      | 高強度材料を用いた RC 梁の付着性状に及ぼすコンクリー<br>ト強度の影響             |
| 満田紗緒理      | カットオフ筋を有する高強度材料を用いた RC 梁の付着強<br>度に及ぼすせん断補強筋量の影響    |
| 岩崎 恭平      | 脆性破壊する RC 造耐震壁の水平耐力評価                              |
| 江川 弥玖      | RC 造壁の地震時損傷評価                                      |
| 木菱 勇太      | 高強度材料を用いた RC 造梁にカットオフ長さが付着損傷<br>評価に与える影響           |
| 高橋 竜弥      | アンボンド PCaPC 梁および壁の実験結果に基づいた骨格<br>曲線に関する研究          |
| 焦研究室（構造系）  |                                                    |
| 松平 定直      | 繰り返し載荷による柱梁接合部における亀裂の長さが<br>最大耐力に及ぼす影響             |
| 山崎 雄貴      | ランダムな地震を受ける鋼構造骨組における梁の挙動                           |
| 西村研究室（構造系） |                                                    |
| 宮崎 洵聡      | 積層ゴム支承を用いた動吸振器による耐震性能向上に<br>関する研究                  |
| 青山さくら      | 高い減衰性能を実現する耐震構造計画                                  |
| 倉持大梧郎      | 高減衰制振構造についての研究                                     |

|            |                                              |
|------------|----------------------------------------------|
| 西垣 凌       | 高い減衰性能を実現する耐震構造計画                            |
| 廣瀬 剛       | アクティブ型動吸振器を用いた波力発電の実験                        |
| 古川 龍太      | 高減衰制振構造についての研究                               |
| 丸山梨花子      | 日本近海で発生する波動エネルギーの年間総量の推定                     |
| 山本 拓       | 積層ゴム支承を用いた動吸振器による耐震性能向上に<br>関する研究            |
| 大橋研究室（材工系） |                                              |
| 伊藤 耀       | 伝統的木造建築の水平耐力の推定に関する研究<br>ー限界耐力計算を用いた設計例の作成ー  |
| 中谷 優花      | 木造軸組構法住宅の耐震診断法に関する研究<br>ー敷地の地震動を考慮した被災度の見直しー |
| 西野 良祐      | 小規模軸組構造物の動的加振実験                              |
| 西村農太郎      | 丸太組構法の構造性能 その 2<br>ーログ壁の挙動とメカニズムに関する研究ー      |
| 灰野 郁哉      | 木材の三角形めり込み挙動に関する研究                           |
| 細川 侑吾      | 伝統建物の設計法の作成 ー接合部要素の基準値作成ー                    |
| 山本紗世子      | N 値計算の精度に関する研究<br>ー静的実験と N 値計算の比較ー           |
| 小見研究室（材工系） |                                              |
| 四十物牙香      | プレモスの構法分析及び BIM モデル化の研究                      |
| 阿部 賢人      | 要支援・要介護高齢者のための戸建住宅リフォームの研究                   |
| 池田 けい      | 要支援・要介護高齢者のための戸建住宅リフォームの研究                   |
| 滝本 翼       | DIY 付き戸建て住宅の実態に関する調査研究                       |
| 田村未奈美      | 防災意識の向上を目的としたスマートフォンゲーム<br>アプリの開発研究          |
| 檜森 和也      | 現代における土造建築の可能性に関する研究                         |
| 古谷万由子      | 防災意識の向上を目的としたスマートフォンゲーム<br>アプリの開発研究          |
| 三沢 康平      | SH-65 の構法分析及び BIM モデル化の研究                    |
| 佐藤研究室（材工系） |                                              |
| 及川 綾太      | 骨材特性が高温履歴時のコンクリート強度に及ぼす<br>影響に関する研究          |
| 今野 聡       | セメント硬化体中の未水とセメントが強度特性に及ぼす影響                  |
| 大澤 寛樹      | 簡易 3D モデルを活用した建築物の劣化診断手法の開発                  |
| 尾登 駿一      | 超高強度コンクリートの部材内部における相組成変化に<br>関する研究           |
| 窪田 隆志      | 反射電子像によるセメント水和物の定量評価に関する研究                   |
| 濱田 悠希      | 経年した鉄筋コンクリート造建築物の劣化状況調査                      |

### 修士論文

|            |                                                |
|------------|------------------------------------------------|
| 小林研究室（環境系） |                                                |
| 中村 有歩      | 現代の温浴施設に求められる入浴の意義とそれを促進<br>する光環境の検討           |
| 大村研究室（構造系） |                                                |
| 鶴岡 湧       | 移動画像検査による軍艦島建築群の崩壊危険評価                         |
| 関根明日香      | 軍艦島における振動モニタリングのデータストリーミング処理                   |
| 河崎 守       | シアスパン比が 1 以下における RC 造連層耐震壁の終局<br>耐力に関する研究      |
| 西村研究室（構造系） |                                                |
| 古橋 一輝      | 高減衰制震構造システムに関する研究                              |
| 岡田 航太      | 非線形座屈現象についての研究                                 |
| 菱沼 乾       | アクティブ型動吸振器を応用した波力発電の研究                         |
| 大橋研究室（材工系） |                                                |
| 桐ヶ谷明彦      | 我が国の木造軸組構法の変遷に関する調査研究<br>ー関西圏における構法調査ー         |
| 佐藤研究室（材工系） |                                                |
| 薦木 啓斗      | 高温履歴を受ける高強度コンクリート部材の品質変動<br>および強度発現性状に関する実験的研究 |



2017 年度 卒業設計・修士設計

卒業設計 学内講評会 2018 年 2 月 9 日 学外講評会 2018 年 2 月 15 日

天野研究室（計画系）

志村 真之介 すきまの商店街 ①

小林研究室（環境系）

高橋 沙季 街に漏れる安らぎ - 書とあかりから - ②

手塚研究室（計画系）

津島 愛音 The world in the sea ③

岸田 淳之介 pando ④

島田 悠太 水と都市 水と建築 - 多摩川がつくるウォーターフロント - ⑤

高木 駿輔 石を感じる場 - 採石場跡地「石切山脈」に建つ建築 - ⑥

鶴田 叡 SPACE for SPACE ⑦

松浦 航大 暮らしを埋めて馴染ませて ⑧

矢田 寛 14000㎡のシェアハウス - 軒で広がり交わる暮らし - ⑨

山道 峻介 みえない小学校 ⑩

福島研究室（計画系）

大竹 俊 ParaHome - 眠らない街で眠る - ⑪

落合 志保 「百年家族」 ⑫

梶谷 紗世子 農住共生帯 - 境界を浸透させる 3 つの手法 - ⑬

吉川 瑞樹 重層都市 - 「モノ」の一生から見る循環型社会の再構築 - ⑭

高橋 万里江 建物語 - 物語を建築化すること - ⑮

筒井 魁汰 和風解体新書 ⑯

遠西 祐也 東京斜景 - 現代都市における斜面の活用 - ⑰

宮崎 彩那 境界の町 - 居住環境を持続させるための集落構造の顕在化 - ⑱

吉田 菜々子 第三市場 - 効率的な現代の商空間に失われた崇高性を取り戻すために - ⑲

堀場研究室（計画系）

川田 夏実 都市の水辺再生 日本橋プロジェクト ⑳

宜志富 紹馬 すまいの記憶 ㉑

草野 良平 継承山道 ㉒

鈴木 光 郊外農地の在り方 ㉓

須藤 希 みんなの遊び場 ㉔

住司 峻 余命宣告 ㉕

東瀬 由佳 都市における教会の在り方 - 共同体意識が生まれるまち - ㉖

橋元 一成 ひゅーがもん 踏襲と改革 ㉗

山本 裕也 open shimokita underground ㉘

修士設計 講評会 2018 年 2 月 15 日

手塚研究室（計画系）

オウイキン ユニセフ組織を基づいての自然とともに子育て環境 ㉙

加藤 賢一 高規格堤防建設における避難街のあり方の考察と提案 ㉚

西尾 拓真 窓空間装置による境界の編集 ㉛

村上 裕貴 津波避難タワーと沿岸地域の在り方の研究 ㉜

福島研究室（計画系）

高橋 衛 住宅の持続可能性と脱 nLDK への思考 ㉝

森 秀太 現代における「共」空間の再編 ㉞

堀場研究室（計画系）

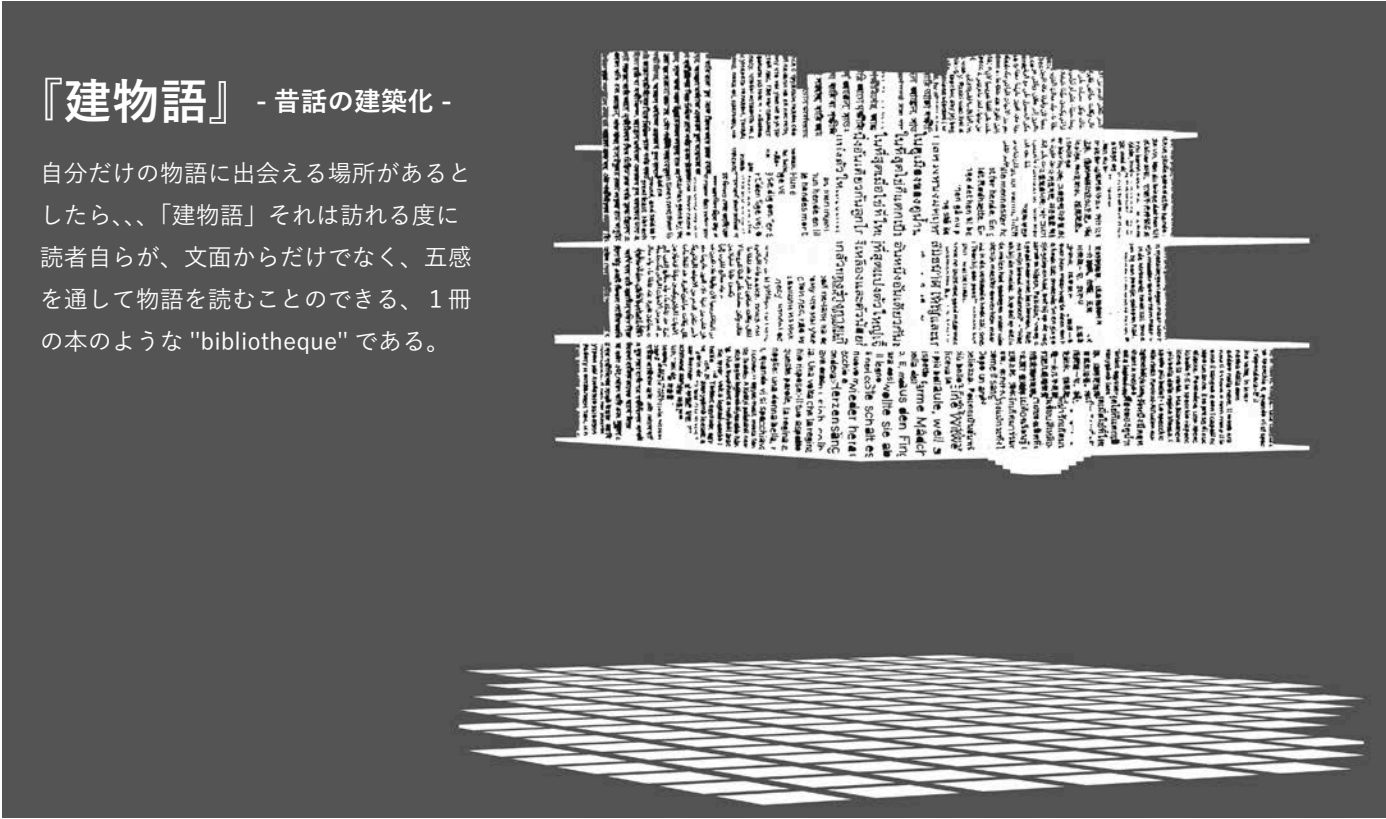
石川 恵理 ヤマザサ増工場跡地における調査と保存活用方法についての研究 ㉟

富谷 亮介 超高層建築におけるパブリックスペースと垂直動線の関係性 ㊱

中島 平 「ウラスガモ」都市型高齢者住宅プロジェクト  
- 果鴨地蔵通り商店街の脇道利用に着目して - ㊲







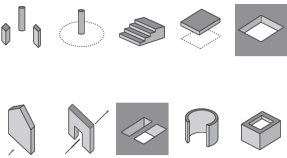
物語を読むということは、道徳的な事や、常識、そしてあらゆる感情を学ぶ事である。私の母は言語学者とし、毎日研究に奮闘している。多忙ながらも、私の幼いときは、世界中のおもしろい物語を見つけては、読み聞かせしてくれた。この卒業設計では、そんな母が今まで教えてくれた「物語の面白さ」と私の今学ぶ「建築」を結びつけたい思いで取り組んだ。

設計の流れ



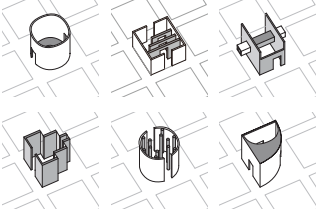
記号学×物語＝物語記号

ラウジミール・プロップによる本『昔話の形態学』によると、昔話は31の展開（物語記号）に分解できる事がわかる。



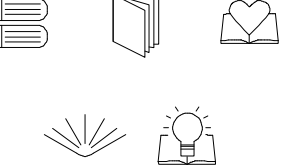
記号学×建築＝建築記号

建築の要素となる10の空間を抽出し、それらをシンボル化する。それらが人々に本能的に与える影響を考える。



物語記号×建築記号＝記号空間

物語の展開一つ一つを建築記号を用いながら、4.5m×4.5mのなかで空間化する。

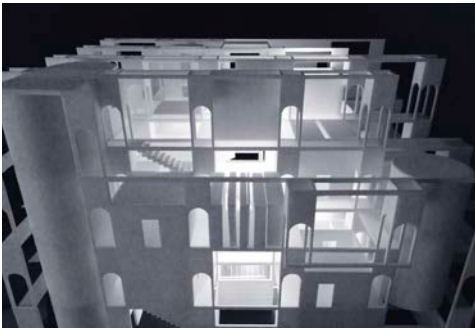


全体構成 as 本

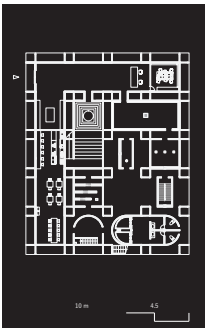
本を読むときの動作を元に、必要な空間を抽出する。ダブルグリッド上に、物語の構造を元に記号空間を配置する。



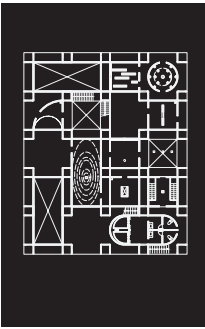
断面展開模型



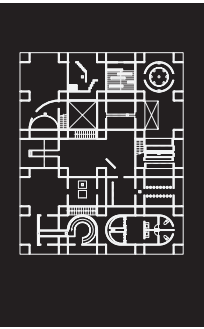
全体模型



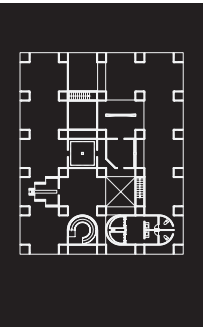
1F (GL ± 0)



2F (GL+4750)



3F (GL+9500)



4F (GL+12500)

高温発熱機器から発生する放射熱量の測定方法に関する研究

1 研究目的

工場や厨房内には高温発熱機器が多く存在し、対流と放射により放熱する。対流による熱は局所排気装置を設けることにより効率的に除去することができるが、放射熱は局所排気装置では効率的に除去することができない。このため空調を行う場合には放射熱は冷房負荷となる。また、放射熱が室内温熱環境に与える影響は大きく、放射熱量を正確に把握することは室内温熱環境の改善において重要である。しかし、既往研究 (ASHRAE) の提示する対流熱と放射熱の測定方法は多くの誤差要因があると考えられるため、本研究では高温発熱機器からの放射熱量を正確に測定する方法を検討する。

2 研究概要

高温発熱機器を設置した実験室において、機器を取り囲む物体の表面温度を熱電対で測定し、高温発熱機器の表面温度を赤外線サーモグラフィで測定する。また、給気・排気温度から熱収支を確認する。モンテカルロ法を用いて機器を取り囲む物体表面と高温発熱機器表面の形態係数を算出し、さらに各表面間の相互反射を組み込んだ Gebhart の吸収係数を求める。得られた結果から、次式により放射熱量が算出できる。

$$Q_{1 \rightarrow 2} = \epsilon_1 \cdot \epsilon_2 \cdot \sigma \cdot B_{12} \cdot (T_1^4 - T_2^4) \cdot A_1$$

ここで、 $Q_{1 \rightarrow 2}$ : 面1から面2への放射熱量[W・m<sup>2</sup>]、 $\epsilon$ : 放射率[-]、 $\sigma$ : ステファン・ボルツマン定数(=5.67×10<sup>-8</sup> [W/(m<sup>2</sup>・K<sup>4</sup>)])、 $B_{12}$ : Gebhartの吸収係数[-]、 $T$ : 絶対温度[K]、 $A_1$ : 面1の面積[m<sup>2</sup>]である。本研究では高温発熱機器として業務用厨房で用いる電気グリドル、ガスグリドル、電気フライヤーを対象として放射熱量の測定方法を検討する。図1に実験室の概要を示す。

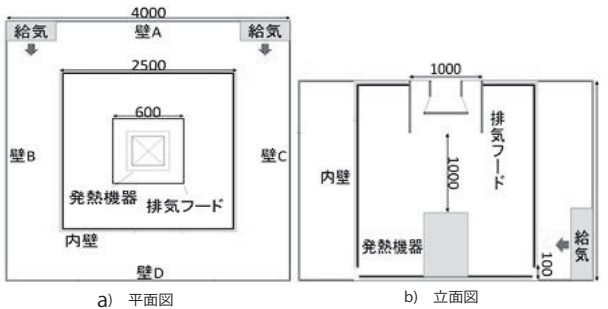


図1 実験室概要

3 実験概要

3.1 内壁・天井・床の表面温度の測定方法

図2に内壁・床・天井の熱電対設置位置を示す。実験室内の内壁・天井・床の内側表面にT型熱電対を121か所に設置し、測定を行う。調理機器を運転させ、実験室内の温度が定常状態に達した後、1時間測定を行う。機器を取り囲む物体表面毎に1時間平均化した値を放射熱量の計算に用いる。

3.2 高温発熱機器の表面温度の測定方法

高温発熱機器の表面に放射率0.94の黒体スプレーを吹いたアルミテープを一部に貼り、赤外線サーモグラフィで撮影する。熱画像の黒体アルミテープを貼りつけた箇所を一周期分面毎に平均化し、表面温度を求める。その後黒体アルミテープを剥がして撮影した熱画像と比較し放射率 $\epsilon$ を決定する。熱画像の撮影は各面に対し1周期分を30秒間隔で行う。

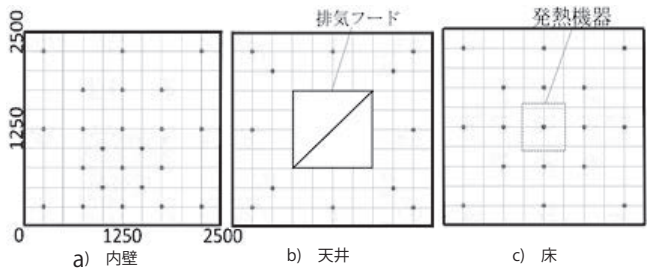


図2 内壁・天井・床の熱電対設置位置

4 測定結果と分析

ここでは例として図3にガスグリドルの稼働時における内壁・天井・床の表面温度の測定結果を図4にガスグリドルの表面温度を示す。表面温度は天井が高く、床が低い。壁面は天井付近が高く床付近が低い温度分布となった。その他の調理機器も同様の温度分布が見られた。ガスグリドルの左・右側面の上下で表面温度が異なるため、それぞれについて放射率と平均温度を算出した。他の調理機器も同一平面上で放射率、表面温度が大きく異なる場合はそれぞれについて放射率、表面温度を算出した。ガスグリドルを含め各調理機器の表面の汚れ具合や、材質の違いによる放射率のばらつきが見られた。今後は今回得られた結果を受けてより簡易的に放射熱量を算出する方法を検討する。

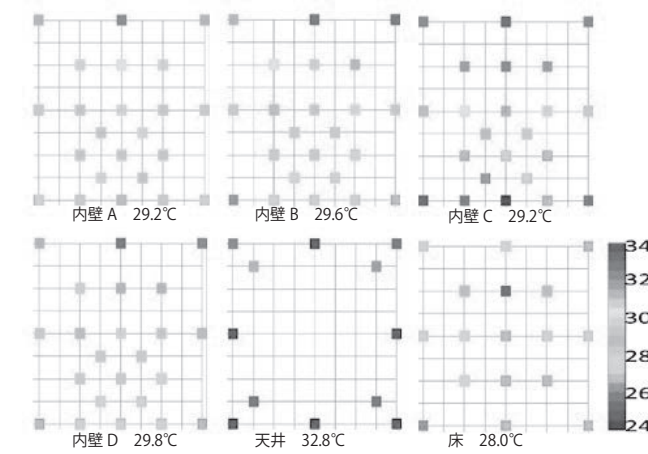


図3 ガスグリドル稼働時の内壁等の表面温度・分布

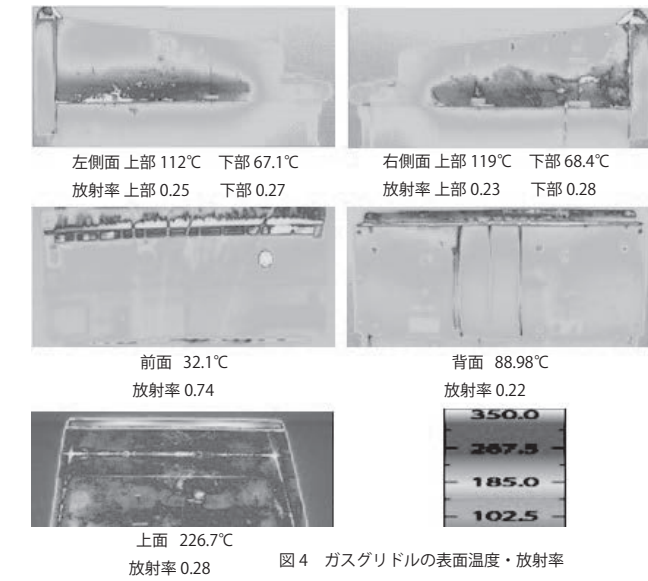


図4 ガスグリドルの表面温度・放射率



如学会の次年度の主な行事は下記の通りです。多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

## 東京都市大学「建築 100 人展 2018 大学展・浅草展」

## 編集後記

2018.11.03 [土・祝] - 11.04 [日]

### 大学展

10:00-18:00 入場無料

会場：建築学科 1 階 グランドギャラリー

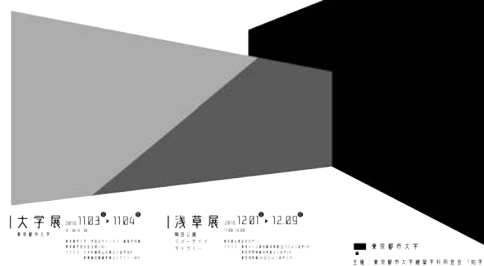
2018.12.01 [土] - 12.09 [日] (予定)

### 浅草展

11:00-18:00 入場無料

会場：隅田公園リバーサイドギャラリー  
オープニングパーティ：12月1日 [土] 18:00- (予定)

### 建築 100 人展



表紙は、東京オリンピック・パラリンピック会場となる「湘南港ヨットハウス」です。設計者の西田勝彦さんは、「年長者が若者の妨げになってはいけない。」との発言もあり、事務所では若いスタッフに囲まれて、第一線で指導されていました。事務所では如学会活動を支えてくれている顔見知りの2年生、3年生も模型制作をしていました。色々な事を吸収して、役立ててほしいと思いました。

新連載として建築学科教室との絆を深める為に、「建築学科たより」も始めました。

「重盛島をはかる」も最終回の第3回目の講演会が3月24日に計画されています。また、例年どおり6月第1週の土曜日に渋谷エクセルホテル東急で2018年度の如学会定期総会を開催します。講演者は、大阪新美術館コンペを昨年獲得した遠藤克彦氏です。コンペ当選は卒業生にインパクトを与えてくれました。現在、基本設計も完了し、完成が期待できます。両企画とも是非、友人、先輩、後輩を誘って出掛け下さい。よろしくお願ひ致します。(丹羽譲治)

## 定期総会・講演会・懇親会

## 建築学生のための進路ガイダンス 2018

2018.06.02 [土] 15:30-20:00

2018.11.21 [水] 13:00-19:00

- 15:30 ●定期総会 ●渋谷エクセルホテル東急
- 16:30 ●休憩
- 16:45 ●講演会 ●講演：「近作について」  
遠藤克彦氏 遠藤克彦建築設計事務所
- 17:45 ●休憩
- 18:00 ●懇親会
- 20:00

※詳細はメールマガジンで追ってお知らせします。  
HP もご覧下さい。

場所・東京都市大学 世田谷キャンパス

- 第1部 事業別仕事紹介 13:00-15:45  
会場：5号館1階「小講堂」  
OB・OGの講師の方々から専門領域の概略をお話しいたします。
- 第2部 企業別仕事紹介 16:00-17:30  
会場：建築学科棟1階「グランドギャラリー」  
OB・OGの方々と直接お話をさせていただきます。
- 第3部 懇親会 17:30-19:00  
会場：1号館4階「ラウンジ・オーク」  
立食形式の懇親会で、参加無料です。自由にご参加下さい。

### 各事業の申し込み

問い合わせ先

総務委員長

丹羽譲治

TEL 03-5790-8082

FAX 03-5790-0654

E-mail

jogakkai.info@gmail.com

### 発行人

山岡 嘉彌

### 情報委員長・編集長

丹羽 譲治

### 編集顧問

松成 和夫

### 編集委員

酒井 孝博

勝又 英明

山口 裕照

鈴木 浩

### エディトリアルデザイン

山岡 嘉彌

### 制作

鈴木 浩

奥山 美緒

### 制作・印刷

株式会社 はやと企画

### 発行

東京都市大学建築学科如学会

東京都世田谷区玉堤 1-28-1

〒158-8557

### 発行日

2018年3月19日

## 遠藤 克彦 氏 講演会

2018.06.02 [土] 16:45-17:45

「近作について (大阪新美術館計画案ほか)」



大阪新美術館 (仮称) コンペを獲得した遠藤克彦氏 (H04 卒) が語る必勝テクニック。

## 赤レンガ卒業設計展 2018

2018.3.22 [木] - 26 [月] 10:00-19:00

- 会場：横浜レンガ倉庫 1号館 1階スポット・2階スペース・3階ホール
- 講評審査会
- ・日時：2018.3.23 [金] 13:15-
- ・会場：横浜赤レンガ倉庫 3階ホール
- ・審査委員長：新居千秋
- ・審査員：猪熊純、大西麻真、藤村龍至、光井純
- 参加大学
- 東京都市大学、宇都宮大学、神奈川大学、共立女子大学、工学院大学、首都大学東京、昭和女子大学、東京工業大学、東京電機大学、東京理科大学、日本大学、日本女子大学、法政大学、前橋工科大学、明治大学、横浜国立大学
- 問い合わせ
- 赤レンガ卒業設計展 2018 実行委員長 石川朔巳
- 東京都市大学工学部建築学科 3年
- akarengasotsuten2018@gmail.com

## 会費・支援費納入のお願い

是非とも旧友、先輩、後輩にご連絡いただき、会費納入の促進にご協力いただけるように願ひします。そして、積極的に如学会活動にご参加下さい。仕事にキャリアにも人脈にも多くのメリットがあります。

会費：3,000 円 (1 年分) / 10,000 円 (4 年分・割引料金)  
支援費：5,000 円 / 一口

納入頂ける方は必ず「内訳」をご記入の上、振込頂くようお願い致します。如学会 NEWS に同封の専用の振込用紙を用いない場合は下記口座をご利用ください。

郵便局 払込取扱票 No. 00160-0-174206 如学会

郵便振込以外の方法を紹介 (詳しくは如学会 HP)

## 如学会 Facebook についてのご案内



ホームページ  
でも  
jogakkai.jp